

# Panasonic®

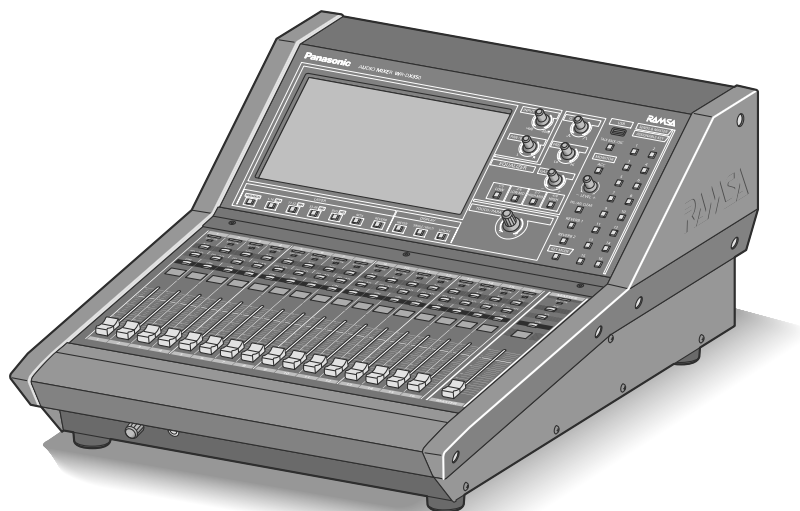
## 取扱説明書 基本操作編

工事説明付き

### オーディオミキサー

品番： WR-DX350

# RAMSA



#### 保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」(8～9ページ)を必ずお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

# はじめに

## 商品概要

WR-DX350（以下本機）は、クラス最多16系統のマトリクス出力と10.1インチタッチパネルとモーターフェーダーを搭載し、文化施設／体育館／講堂／宴会場などさまざまな用途にご使用いただけるコンソールタイプの設備用デジタルミキサーです。またDanteオーディオネットワークを介した音声入出力が可能です。

## 主な特長

- 信号処理部、32bitA/D・D/Aコンバータ（サンプリングレート48/96 kHz対応）、電源部を内蔵したオールインワン・デジタルミキサー。
- 本体後面にアナログ入力16チャンネル、アナログ出力16チャンネルとモニター出力2チャンネルを装備。アナログ出力は、マトリクス出力だけでなくミキシングバス出力もアサイン可能。
- 100 mmモータードライブフェーダーを採用し、合計17本を搭載。
- 各チャンネル上部に小型ディスプレイと8色から任意の色を選択表示できるチャンネルインジケータを搭載、各チャンネルの状態把握が可能。
- 接続したUSBメモリーに、音声の録音・再生が可能。
- 2基のカードスロットを搭載、1基にはDanteカード（WR-PC002）（1SLOTあたり32入力32出力）を標準装備。
- 2基目のスロットにDanteカード（WR-PC002）を追加することで、ノンリダundantネットワークとリダundantネットワークに切り分けて接続が可能。
- 96パターンメモリー、8ミュートグループに加え、イコライザー、ダイナミクスにそれぞれ16ライブラリメモリーを搭載。
- 多チャンネルの状態監視とプロジェクトごとのメモリー管理を容易にするPC用リモートコントロールソフトウェアを製品HPからダウンロード可能。
- iPad、PCによるリモートコントロールにも対応。場内／舞台上での遠隔操作が可能。
- 本機からオーディオインターフェースユニット（WR-SB350：別売品）のトリム、ファンタム、ルーティングの遠隔操作が可能。

## 付属品をご確認ください

取扱説明書 基本操作編（本書）..... 1冊  
電源コード..... 1本  
ライセンスちらし..... 1枚

保証書..... 1式  
カバー..... 1個

## 取扱説明書について

取扱説明書は、本書（基本操作編）と応用操作編（PDFファイル）、リモートコントロールソフト（PCソフト用/iPad用）用取扱説明書（PDFファイル）の4部構成になっています。

本書（基本操作編）と応用操作編（PDFファイル）、リモートコントロールソフト用取扱説明書（PDFファイル）は下記の製品ページよりダウンロードできます。

<https://sol.panasonic.biz/sound/ramsa/mxser-signal-processor/wr-dx350.html>

本機の基本操作方法については本書をお読みください。構成は次のようになっています。

はじめに : 最初に読んでいただきたい内容を記載しています。

基本操作 : ミキサー本体の基本的な操作方法、音作りに重要な基本機能の使用方法、モニター機能について説明しています。

設置 : 別売品オプションカードの取り付けかたなどについて説明しています。

付録 : 本機の仕様および保証とアフターサービスについて説明しています。

本機の応用操作方法については、取扱説明書 応用操作編（PDFファイル）をお読みください。詳細な機能の設定方法や設定内容の保存方法などデジタルミキサー特有の機能について説明しています。

リモートコントロールソフトの操作方法については、リモートコントロールソフト用取扱説明書（PDFファイル）をお読みください。

※ PDFファイルをお読みになるには、Adobe® Acrobat Reader®が必要です。

## 免責について

弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

- ① 本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ② お客様の誤使用や不注意による障害または本商品の破損など不便・損害・被害
- ③ お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
- ④ 本商品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、運用ができないことなどで被る不便・損害・被害
- ⑤ 第三者の機器などと組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
- ⑥ 本商品の不良・不具合以外の事由（取付工事の不備、建屋側取り付け面の不良などを含む）による落下などによる不便・障害・被害
- ⑦ 登録した情報内容が何らかの原因（ユーザー名、パスワードなどの認証情報を忘れたことにより本商品を初期化する場合を含む）により消失してしまうこと

## 商標および登録商標について

- Adobe、Adobeロゴ、Acrobat、PostScriptおよびPostScriptロゴはAdobeの商標です。
- Audinate®、Audinateのロゴ及びDante®は、Audinate Pty Ltdの登録商標です。
- iPad®は、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- その他、この説明書に記載されている会社名・商品名は、各会社の商標または登録商標です。

## 略称について

このドキュメントでは、以下の略称を使用しています。

- パーソナルコンピューターをPCと表記しています。
- リモートコントロールソフトをリモートソフトと表記しています。
- 本機タッチパネルディスプレイに表示される映像を画面と表記しています。
- Dante®をDanteと表記しています。

## セキュリティに関するお願い

本製品をご使用になる場合、以下のような被害を受けることが考えられます。

- ① 本機を経由した情報の漏えいや流出
- ② 悪意を持った第三者による本機の不正操作
- ③ 悪意を持った第三者による本機の妨害や停止

このような被害を防ぐため、お客様の責任の下、下記のような対策も含め、ネットワークセキュリティ対策を十分に行ってください。

- インターネットに接続していない安全性の確保されたネットワーク上で本機を使用する。
- コンピューターが接続されているシステムで本機を使用する場合、コンピューターウイルスや不正プログラムの感染に対するチェックや駆除が定期的に行われていることを確認する。
- 不正な攻撃から守るため、認証を利用し、パスワードは8文字以上かつ文字種類3種以上を使用するなどして、第三者に推測されないようにする。
- パスワードを第三者の目に触れないよう、適切に保管する。
- パスワードは、定期的に変更し、他のアカウント情報と同じものを使いまわさない。(パスワードの変更方法はリモートコントロールソフトの取扱説明書をお読みください。)
- 本機内の設定情報をネットワーク上に漏洩させないため、認証設定でアクセスを制限するなどの対策を実施する。
- 本機、ケーブルなどが容易に破壊されるような場所には設置しない。

## オープンソースソフトウェアについて(WR-DX350)

本製品は下記のOSSを使用しています。

[BSD]

USB Driver

lwIP 2.0.3

### 本製品に含まれる第三者製ソフトウェアのライセンスについて

そのライセンスは、付録の[ライセンス文について]を参照して下さい。

### 著作権等について

上記を除いて、本ソフトウェアの著作権、その他の無体財産権は、パナソニック コネクト株式会社 または第三者に帰属しており、お客様へは移転しません。

また、本ソフトウェアを使用した際に生じた障害、損失などに関して、弊社はいかなる責任も負いません。

---

## オープンソースソフトウェアについて(WR-PC002)

本製品に標準装備されている32チャンネル入出力Danteカード（WR-PC002）には下記のOSSを使用しています。

[GPL/LGPL]

PetaLinux

uClibc

u-boot

busybox

[GPL/LGPL 以外]

xnprintf for C/C++

tropicssl

Precision Time Protocol daemon

mDNSResponder

FastCGI

lighttpd

libsodium

### WR-PC002に含まれる第三者製ソフトウェアのライセンスについて

WR-PC002はGPLの第三者製ソフトウェアを含んでいます。そのライセンスは、同梱されているチラシを参照してください。

また、WR-PC002の発売から少なくとも3年間、以下の問い合わせ窓口にご連絡いただいた方に対し、実費にて、GPL V2.0、LGPL V2.1、LGPL V3.0、またはソースコードの開示義務を課すその他の条件に基づきライセンスされたソフトウェアに対応する完全かつ機械読み取り可能なソースコードを、それぞれの著作権者の情報と併せて提供します。

問い合わせ窓口：oss-cd-request@gg.jp.panasonic.com

### 著作権等について

上記を除いて、WR-PC002のソフトウェアの著作権、その他の無体財産権は、パナソニック コネクト株式会社または第三者に帰属しており、お客様へは移転しません。

また、WR-PC002のソフトウェアを使用した際に生じた障害、損失などに関して、弊社はいかなる責任も負いません。

# はじめに

---

## 記号について

本書では、以下の記号を用いて説明しています。



**重要** : 該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



**メモ** : 使用上のヒントが書かれています。

# もくじ

## はじめに

はじめに	2
商品概要	2
主な特長	2
付属品をご確認ください	2
取扱説明書について	3
免責について	3
商標および登録商標について	3
略称について	3
セキュリティに関するお願い	4
オープンソースソフトウェアについて(WR-DX350)	4
オープンソースソフトウェアについて(WR-PC002)	5
記号について	6
安全上のご注意	8
使用上のお願い	10
各部の名前とはたらき	11
コントロールパネル	11
リアパネル	16
フロントパネル	17

## 基本操作

基本操作	18
画面の基本操作	18
音を出すために	22
モニター機能の設定	27

## 設置・接続

設置	30
設置上のお願い	30
設置のしかた	31
ラック設置のしかた	31
電源コードの取り付けかた	32
ケーブルについて	32
接続	33
接続例	33
ミキサーランプの接続	34
PC制御	34
オプションカード	34
Danteについて	35
Dante Controllerについて	35
設置後の確認	35
設定データのバックアップ	35

## その他

外形寸法図	36
ブロックダイヤグラム	38
レベルダイヤグラム	40
メッセージ一覧	41
故障かな!?	42
仕様	43
付録・ライセンス文について	45
保証とアフターサービス	47

# 安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



## 警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



## 注意

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



## 警告



### ■ 工事は販売店に依頼する

(工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。)  
→必ず販売店に依頼してください。

### ■ ねじやボルトは指定されたトルクで締め付ける

(落下によるけがや事故の原因となります。)

### ■ 電源プラグは根元まで確実に差し込む

(差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。)  
→傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

### ■ アースを確実に取り付ける

(本機の電源プラグはアース端子付き2芯プラグです。アースは確実に行って使用してください。アースを取り付けないと、故障や漏電による感電の原因となります。)  
→販売店に相談してください。(アース工事費は本製品の価格には含まれていません。)

### ■ 電源コードは、必ずプラグ本体を持って抜く

(コードが傷つき、火災や感電の原因となります。)

### ■ 持ち運ぶときはコードやUSBメモリー、ランプなどの接続品をすべて抜く

(コードに足をかけたり等けがの原因となります。また、コードやUSBメモリー、ランプなどが傷つき火災や感電の原因となります。)

### ■ お手入れのときは電源を切る

(感電の原因となります。)

### ■ 電源プラグのほこりなどは定期的にとる

(プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。)  
→電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

### ■ 異常があるときは、すぐ使用をやめる

(煙が出る、においがする、外部が劣化するなど、そのまま使用すると火災・落下によるけが、器物損壊の原因となります。)  
→放置せずに、直ちに電源を切り、販売店に連絡してください。



## 警告



禁止

- ケーブルなどは引っ張らない  
(火災や感電の原因となります。)
- ケーブルなどを傷つけない  
(重いものを載せたり、はさんだりすると、ケーブルが傷つき、火災や感電の原因となります。)
- 湿気やほこりの多い場所に設置しない  
(火災や感電の原因となります。)
- 不安定な場所に置かない  
(落下や転倒によるけがや事故の原因となります。)
- 振動や強い衝撃を与えない  
(火災や感電の原因となります。)
- 異物を入れない  
(水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因となります。)  
→直ちに電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。
- 電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない (傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重い物を載せる、束ねる など)  
(傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因となります。)  
→コードやプラグの修理は販売店に相談してください。
- 雷のときは工事、配線をしない  
(火災や感電の原因となります。)



ぬれ手禁止

- ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない  
(感電の原因となります。)



分解禁止

- 分解しない、改造しない  
(火災や感電の原因となります。)



水ぬれ禁止

- 水をかけたり、ぬらしたりしない  
(火災や感電の原因となります。)  
→直ちに電源を切り、販売店に連絡してください。
- 機器の上や周囲に水などの入った容器を置かない  
(水などが中に入った場合、火災や感電の原因となります。)  
→直ちに電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。



接触禁止

- 雷が鳴り出したら、本機や電源コード、接続したケーブルに触れない (工事時を含む)  
(感電の原因となります。)

## 注意



禁止

- 通風孔、冷却ファンをふさがない  
(内部に熱がこもり、火災の原因となります。)

# 使用上のお願い

「安全上のご注意」に記載されている内容とともに、以下の事項をお守りください。

## 使用温度範囲は

0℃～45℃です。この温度範囲以外で使用すると、故障または誤動作の原因となります。

## 付属の電源コードは本機専用です。

他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。

## 電源スイッチについて

電源スイッチを「切」にしても、電源からは遮断されません。電源を遮断する場合は、コンセントから本機の電源プラグを抜いてください。また、電源制御ユニット使用時は電源制御ユニットの電源を切ってください。

## 電源スイッチを入／切するときは

パワーアンプや周辺機器の電源を切ってから行ってください。クリックノイズが発生し、スピーカーや周辺機器を破損する恐れがあります。

## 長期間使用しない場合は

電源スイッチを「切」にして、電源プラグをコンセントから抜いてください。

## 結露について

結露は、故障の原因になりますので注意してください。以下のようなときに結露が発生しやすくなります。

- 湿度が高いとき
  - 冷たい場所から、温度や湿度の高い場所に移動したとき
- 結露が発生した場合は、1～2時間程度放置して、結露がなくなったことを確認してから電源を入れてください。

## フェーダー、チャンネルスイッチを入れたまま、コネクタの抜き差しをしない

クリックノイズが発生し、スピーカーの破損が生じる場合があります。抜き差しは必ずフェーダー、チャンネルON/OFFスイッチまたはアンプを切ってから行ってください。

## ファンタム電源について

CDプレーヤー、エフェクト機器、アンバランスタイプのマイク使用時は、必ずファンタム電源を切ってください。故障の原因となる恐れがあります。

また、外部電源使用のコンデンサーマイクの抜き差しは、フェーダー、チャンネルON/OFFスイッチ、ファンタム電源スイッチを切り、1分以上たってから行ってください。マイク、ミキサーに破損・故障が生じる恐れがあります。

## ヘッドホンをご使用のときは

過大な音量で耳を痛めることのないよう、適当な音量でお聞きください。

## ご使用の際は

- トランシーバー、トランス、調光器、CRTモニターなどからできるだけ離してご使用ください。誘導ノイズを受ける恐れがあります。
- スイッチ、ノブ、フェーダーに無理な力を加えないでください。破損の原因となります。
- フェーダーは、ほこりの付着などによりクロストークが劣化したり、ノイズが発生することがあります。そのようなときは販売店にご相談ください。

## お手入れは

- 電源を切り、乾いた柔らかい布でふいてください。ほこりが取れにくいときは、水で薄めた台所用洗剤（中性）を柔らかい布にしみこませ、固く絞ってから軽くふいてください。そのあと、乾いた柔らかい布で、洗剤成分を完全にふき取ってください。
- シンナーやベンジンなど、揮発性のものは使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きにしたがってください。

## タッチパネルディスプレイのお手入れについて

- 定期的にお手入れすることをお勧めします。
- タッチパネルディスプレイは汚れやほこり、油分などが目立つときは、すぐに清掃してください。
- 乾いた柔らかい布で、軽く汚れやほこりをふいてください。
- タッチパネルディスプレイを強い力でふいたり押さえたり、衝撃を与えたり荷重を加えたりすると、液晶画面が破損するおそれがあります。
- 液体やスプレー式のクリーナーを使用しないでください。タッチパネルディスプレイの機能が損なわれる原因となります。
- ゴムやビニール製品を長時間接触させたままにしないでください。変色や変質の原因となります。
- ベンジン、シンナー、接着材、アルカリ性洗剤、アルコール系洗剤、ガラスクリーナー、ワックス、研磨材入り洗剤、粉末洗剤、殺虫剤などを使用しないでください。色や質感が損なわれるおそれがあります。（化学ぞうきんを使用する場合は、注意書きにしたがってください。）

## 使用上の注意事項

- 同一入力信号を異なる経路でミキシングする場合、信号処理のための位相差によって音質が変わることがあります。
- 信号を入力したままでパターン切り替えを行う場合、入力側と出力側のチャンネル設定およびレベル設定の時間差で一瞬音が出てしまうことがあります。
- 信号入力状態で各種パラメーターやスイッチの設定・変更を行った場合、音声データの不連続によって、ノイズとして聞こえることがあります。
- 出力端子の系統設定・変更は、パワーアンプの電源を切ってから行ってください。
- 冷却ファンは消耗品です。約17,500時間を目安に交換してください。（ただし、この時間はあくまでも交換の目安であり、部品を保証するものではありません）交換は販売店に依頼してください。
- 水滴または水沫のかからない状態で使用してください。

# 各部の名前とはたらき

## コントロールパネル

はじめに

フェーダーレイヤー操作部

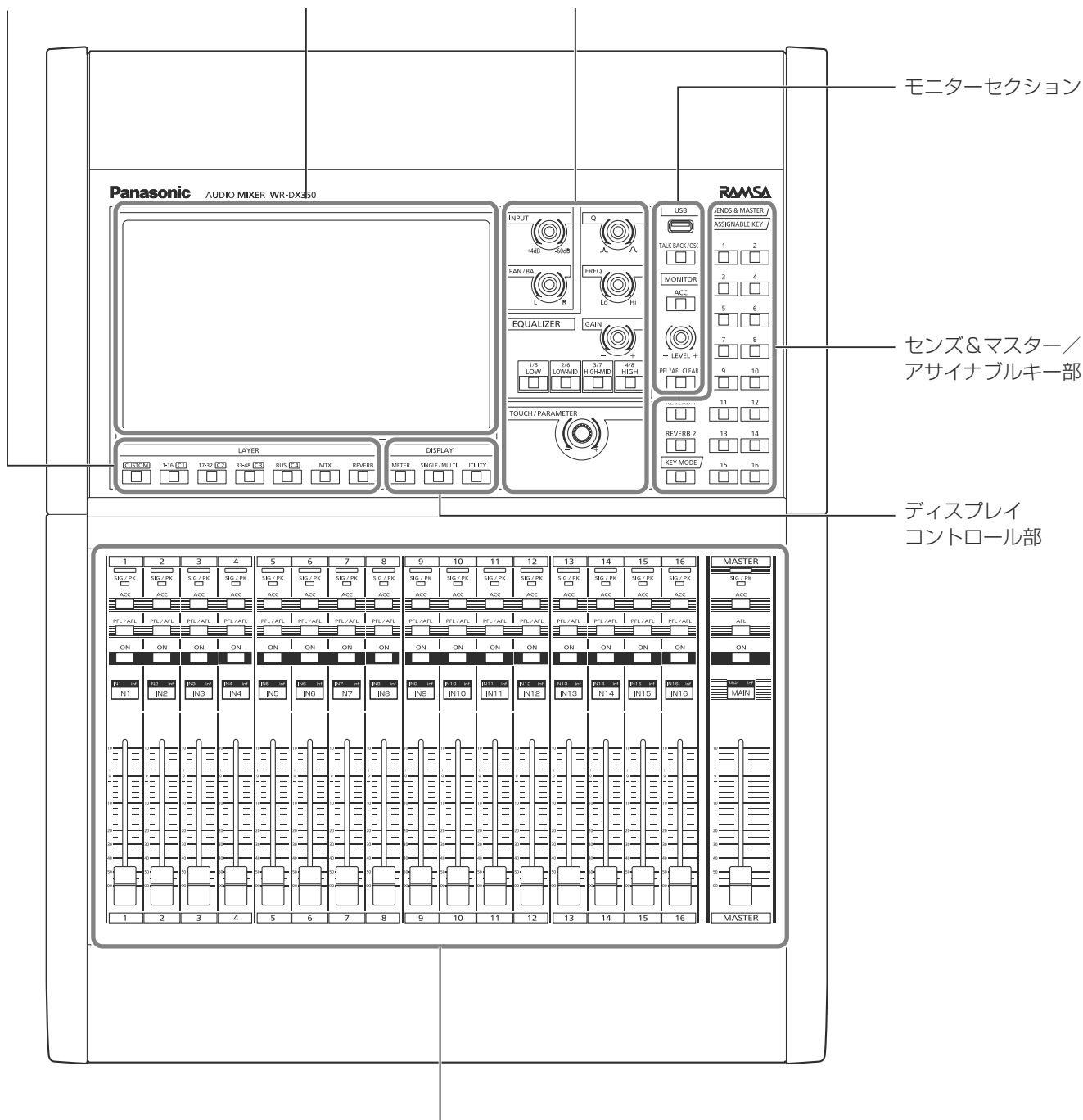
タッチパネルディスプレイ

チャンネルコントロール部

モニターセクション

センス&マスター/  
アサインブルキー部

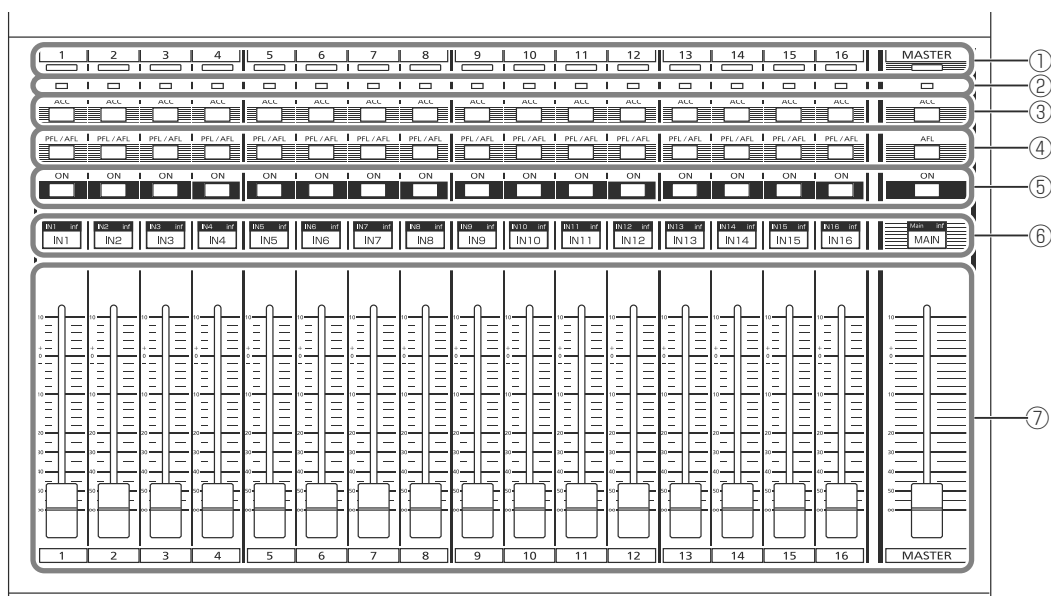
ディスプレイ  
コントロール部



チャンネルフェーダーモジュール

# 各部の名前とはたらき

## ■ チャンネルフェーダーモジュール



### ① チャンネルインジケータ

各チャンネルに設定した色を表示します。  
設定できる色と初期設定は、下記のとおりです。設定方法の詳細は「取扱説明書 応用操作編」をお読みください。

No	Color	初期設定
1	OFF	—
2	Blue	BUS
3	Green	INPUT
4	Cyan	REVERB
5	Red	MAIN
6	Magenta	—
7	Yellow	—
8	Orange	MATRIX
9	Purple	—

### ② シグナル／ピーク表示灯 [SIG/PK]

音声信号レベルの有無と、ピークを表示します。

消灯 : -40 dBu未満  
 緑点灯 : -40 dBu以上、+4 dBu未満  
 橙点灯 : +4 dBu以上、+21 dBu未満  
 赤点灯 : +21 dBu以上

### ③ アクセススイッチ [ACC] (橙色)

画面で操作するチャンネルを選択します。  
ON (点灯) にすると、画面上に選択したチャンネルの情報が表示され、現在の状態確認と設定の変更・更新ができます。  
PC用リモートソフトを使用しているときは、PC画面上でも同じチャンネルを選択することができます。  
本スイッチを押しながら [PFL/AFL] スイッチを押すと、フェーダーが0 dBに設定されます。



● チャンネルフェーダーモジュールの最も右側に位置するマスターフェーダー上で、チャンネルディスプレイにメインチャンネルが表示されている場合、そのチャンネルの [ACC] スイッチを押すたびに [MAIN L] と [MAIN R] が画面に交互に表示されます。

### ④ PFL/AFLスイッチ [PFL/AFL] (緑色)

モニターしたいチャンネルを選択します。  
ON (点灯) にすると、該当チャンネルのプリフェーダー信号またはアフターフェーダー信号をモニターします。  
 インプットレイヤー : プリフェーダー信号  
 アウトプットレイヤー : バス、メイン、マトリクスチャンネルはアフターフェーダー信号  
 リバースはアフターフェーダー信号

### ⑤ チャンネルON/OFFスイッチ [ON] (赤色)

チャンネルの音声出力をON (点灯) またはOFF (消灯) にします。

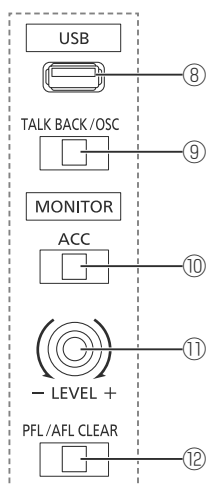
### ⑥ チャンネルディスプレイ

各フェーダーにアサインされているチャンネル名、設定値、機能を表示するディスプレイです。

### ⑦ フェーダー

チャンネルの主音量を調整します。  
調整範囲 : +10 dB ~ -138 dB、inf dB

## ■ モニターセクション



### ⑧ USB端子 [USB]

USBフラッシュメモリーを接続し、データの保存・読み込み、および録音再生を行うことができます。

- 使用するUSBフラッシュメモリーをフォーマットする場合はFAT16、またはFAT32でフォーマットしてください。
- USBメモリーには、誤ってデータを削除しないためにライトプロテクトをかけられるものがあります。データの書き込みを行うときはライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。



- すべてのUSBフラッシュメモリーの動作を保証するものではありません。詳しくは、販売店までお問い合わせください。

### ⑨ トークバック／オシレーターアクセススイッチ [TALK BACK/OSC] (橙色)

本スイッチを押すことにより、トークバック/オシレーターの情報が画面に表示されます。

### ⑩ モニターアクセススイッチ [ACC] (橙色)

ON (点灯) にすると、画面上にモニター出力の情報が表示され、現在の状態確認と設定の変更・更新ができます。

### ⑪ モニターレベルノブ [LEVEL]

モニターの出力レベルを調整します。ノブを押しながら回すことでより細かいステップ (数値幅) で調整することができます。

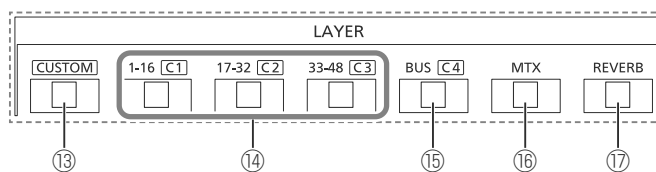
調整範囲 : (+10 dB ~ -138 dB, inf dB)

### ⑫ PFL/AFL CLEARスイッチ [PFL/AFL CLEAR] (橙色)

チャンネルフェーダーモジュールのPFL/AFLスイッチのいずれかがONの設定の場合、点灯します。

[PFL/AFL CLEAR] スwitchが点灯している状態で本スイッチを押すとチャンネルフェーダーモジュールの[PFL/AFL] スwitchのON設定を一斉にクリアすることができます。

## ■ フェーダーレイヤー操作部



チャンネルフェーダーモジュールのメインLR以外の16本のフェーダーはレイヤーを切り替えることで、[INPUT1~16]、[INPUT17~32]、[INPUT33~48] チャンネルまたは[BUS1~16] チャンネル、4種類の[CUSTOM] レイヤー、[MATRIX1~16] チャンネル、[REVERB1~2] チャンネルのコントロールができます。

### ⑬ カスタムレイヤー選択スイッチ [CUSTOM]

ON (点灯) にすると [1-16 C1]、[17-32 C2]、[33-48 C3]、[BUS C4] スwitchがそれぞれカスタムレイヤー1~4の選択スswitchとなります。

### ⑭ インプットレイヤー選択スイッチ

[1-16 C1] [17-32 C2] [33-48 C3] (緑色)

[CUSTOM] スwitchがOFF (消灯) のときにON (点灯) にすると、チャンネルフェーダーモジュールが [INPUT1~16] [INPUT17~32] [INPUT33~48] チャンネルに切り替わります。

[CUSTOM] スwitchがON (点灯) のときにON (点灯) にすると、チャンネルフェーダーモジュールが、表示するチャンネルをユーザーが任意に設定できるカスタムレイヤー [C1] [C2] [C3] に切り替わります。

### ⑮ バスレイヤー選択スイッチ [BUS C4] (橙色)

[CUSTOM] スwitchがOFF (消灯) のときにON (点灯) にすると、チャンネルフェーダーモジュールが [BUS] チャンネルに切り替わります。

[CUSTOM] スwitchがON (点灯) のときにON (点灯) にすると、カスタムレイヤー [C4] に切り替わります。

### ⑯ マトリクスレイヤー選択スイッチ [MTX] (橙色)

ON (点灯) にするとチャンネルフェーダーモジュールが [MATRIX1~16] チャンネルに切り替わります。

### ⑰ リバースレイヤー選択スイッチ [REVERB] (橙色)

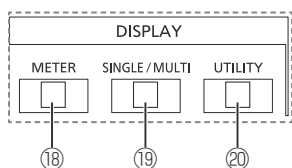
OFF (消灯) 状態の本スイッチを押すとON (点灯) し、画面上にリバース1の情報が表示され、現在の状態確認と設定の変更・更新が行えます。また、チャンネルフェーダーモジュールのフェーダー1、2がリバースへの全体的なセンド量を調整するセンドマスターフェーダー ([REV1(send)] [REV2(send)]), フェーダー5、6がリバースからのリターン量を調整するリターンフェーダー ([REV1(return)] [REV2(return)]) にそれぞれ切り替わります。



- リバースのリターンフェーダーはそれぞれが独立したステレオフィーダーとして機能します。

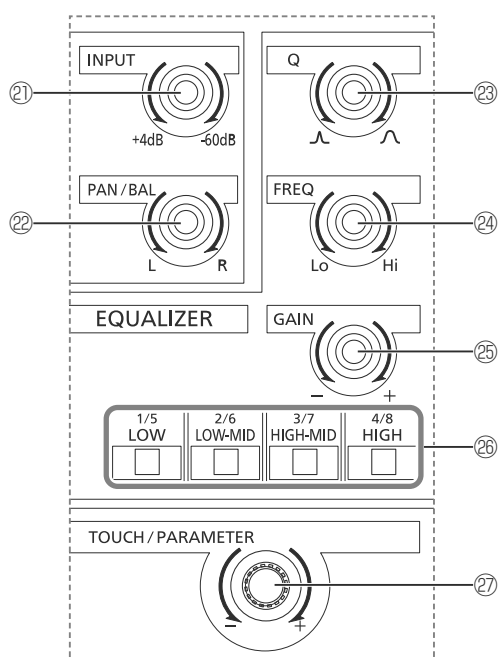
# 各部の名前とはたらき

## ■ ディスプレイコントロール部



- ⑱ **メーター画面アクセススイッチ [METER] (橙色)**  
ON (点灯) にすると、画面上にレベルメーターおよびモニターの情報が表示され、現在の状態確認と設定の変更・更新ができます。再度 [METER] スイッチを押すことで、インプットとアウトプットのモニターの情報を切り替えることができます。
- ⑲ **シングルチャンネル画面／マルチチャンネル画面アクセススイッチ [SINGLE/MULTI] (橙色)**  
ON (点灯) にすると、画面上にチャンネルフェーダーモジュールの [ACC] スイッチがON (点灯) になっているチャンネルの情報が表示され、現在の状態確認と設定の変更・更新ができます。  
スイッチを押すたびに画面上の表示はシングルチャンネル画面とマルチチャンネル画面が交互に切り替わります。
- ⑳ **ユーティリティ画面アクセススイッチ [UTILITY] (橙色)**  
ON (点灯) にすると、画面上にユーティリティの情報が表示され、現在の状態確認と設定の変更・更新ができます。

## ■ チャンネルコントロール部



チャンネルコントロール部の各ノブで、画面上に表示されているチャンネルの設定の変更・更新ができます。

- ㉑ **トリムノブ [INPUT]**  
チャンネルフェーダーモジュールの [ACC] スイッチで選択されているチャンネルの入力レベルを調整します。  
調整範囲：+4 dBu～-60 dBu
- ㉒ **パン／バランスノブ [PAN/BAL]**  
画面上に表示されているチャンネルのパンレベル（ステレオチャンネルのときはバランスレベル）を調整します。  
調整範囲：L16～C～R16
- ㉓ **EQ Qノブ [Q]**  
EQバンド選択スイッチまたは画面上で選択されたバンドのQを設定します。  
調整範囲：0.3～30,SHL,SHH



● 詳しい設定方法については、「取扱説明書 応用操作編」をお読み下さい。

- ㉔ **EQ 周波数ノブ [FREQ]**  
EQバンド選択スイッチまたは画面上で選択されたバンドの周波数を設定します。  
ノブを押さずに回すと1/24 octごと、押しながら回すと1/48 octごとの調整が可能です。  
調整する周波数の範囲：20 Hz～20 kHz
- ㉕ **EQ ゲインノブ [GAIN]**  
EQバンド選択スイッチまたは画面上で選択されたバンドのゲインを調整します。  
調整範囲：-15 dB～+15 dB

- ㉖ **EQ バンド選択スイッチ [LOW (1/5)、LOW-MID (2/6)、HIGH-MID (3/7)、HIGH (4/8)] (緑色)**  
画面上に表示されているチャンネルのEQのバンドを選択します。  
選択されているバンド選択スイッチが点灯します。
- ㉗ **パラメーターノブ [TOUCH/PARAMETER]**  
チャンネルフェーダーモジュールの [ACC] スイッチで選択されているチャンネルの各機能のパラメーター値を調整します。  
操作対象のパラメーターは、画面上で設定値が反転表示されます。



● パラメーターによっては、押しながら回すことでより細かいステップ（数値幅）で調整することができます。

## ■ タッチパネルディスプレイ

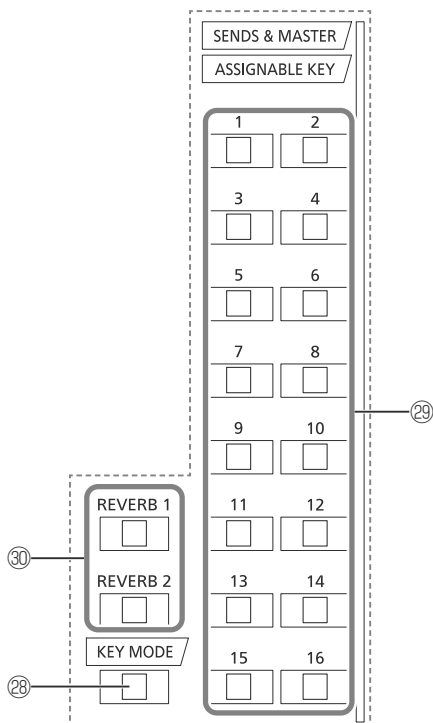


10.1型カラー画面です。本機の運用状況、設定内容表示、操作を行います。



- タッチパネルを操作するときは、1本の指で操作してください。複数本の指で同時に触れると、正しく動作しないおそれがあります。
- 本機は静電式のタッチパネルを採用しているため、手袋などをしているとタッチ操作に反応しない場合があります。

## ■ センズ&マスター／アサインブルキー部



### ⑳ キーモード切り替えスイッチ [KEY MODE]

本スイッチを押すたびにセンズ&マスターキーモードとアサインブルキーモードを切り替えることができます。センズ&マスターキーモード時は緑点灯し、アサインブルキーモード時は橙点灯します。

### ㉑ BUS／MTX 1～16選択スイッチ [1] ～ [16]

センズ&マスターキーモード時は緑色に点灯します。このとき、本スイッチを押すと、選択したスイッチが緑点滅し、バスチャンネル、またはマトリクスチャンネルへのセンドレベルをチャンネルフェーダーモジュールに表示することができます。

この際、フェーダーを用いて各センドレベルの調整も可能です。

選択状態にある本スイッチを再度選択、または選択状態でないBUS/MTX1～16選択スイッチ、リバーブ1,2選択スイッチを押すと、緑点滅していたスイッチが緑点灯します。

アサインブルキーモード時、機能が割り振られているスイッチは橙点灯、または橙点滅します。

詳しくは「取扱説明書 応用操作編」をお読みください。

### ㉒ リバーブ1,2選択スイッチ [REVERB 1],[REVERB 2]

センズ&マスターキーモード時は緑色に点灯します。ただし、インプットチャンネルがチャンネルフェーダーモジュールに表示されていないとき、またはカスタムレイヤー選択状態で画面にインプットチャンネルが表示されていないときは消灯します。

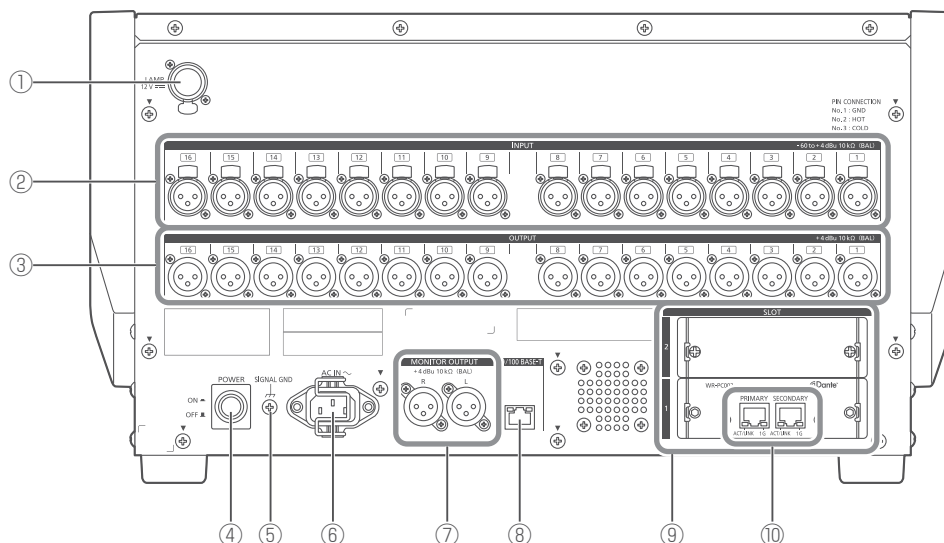
点灯状態の本スイッチを押すと、選択したスイッチが緑点滅し、リバーブチャンネルへのセンドレベルをチャンネルフェーダーモジュールに表示することができます。このとき、フェーダーを用いて各センドレベルの調整も可能です。

選択状態にある本スイッチを再度選択、またはBUS/MTX1～16選択スイッチ、選択状態でないリバーブ1,2選択スイッチを押すと点滅していた、スイッチは緑点灯します。

アサインブルキーモード時は、本スイッチを使用できません。

# 各部の名前とはたらき

## リアパネル



### ① ランプ接続端子 [LAMP] (XLR 4pin メス)

市販のグースネック式ランプを接続します。

### ② インプット1~16端子 [INPUT1~16]

モノラル音声の入力用端子です。

### ③ アウトプット1~16端子 [OUTPUT1~16]

ミキシングされた音声が出力される端子です。工場出荷時には [MATRIX1~16] が出力されています。ユーティリティの設定で出力システムを変更できます。設定方法は「取扱説明書 応用操作編」をお読みください。

### ④ 電源スイッチ [POWER]

本機の電源をON/OFFします。

### ⑤ シグナルアース端子 [SIGNAL GND]

他機器との電位差をなくすため、各機器のSIGNAL GNDと接続します。

### ⑥ ACインレット [AC IN]

付属の電源コードを差し込みます。

### ⑦ モニターL・R出力端子 [MONITOR OUTPUT L, R]

モニター用スピーカーを接続し、個々の入力信号やミキシングした音を確認するときに使います。(22ページ)

### ⑧ LANコネクタ [10/100BASE-T] (RJ45)

PCなどの制御機器と接続する端子です。市販のWi-Fiルーター経由でiPadなどのWi-Fi機器からの制御も可能です。詳しくは34ページをお読みください。

### ⑨ カードスロット1、2 [SLOT 1]、[SLOT 2]

本機の入出力を拡張するためのカードスロットです。[SLOT 1] には32チャンネル入出力Danteカード (WR-PC002) が標準装備されています。

### ⑩ デジタル入出力端子 [PRIMARY] [SECONDARY] (RJ45)

イーサネットケーブルを使用して、Dante 機器と接続する端子 (RJ45) です。

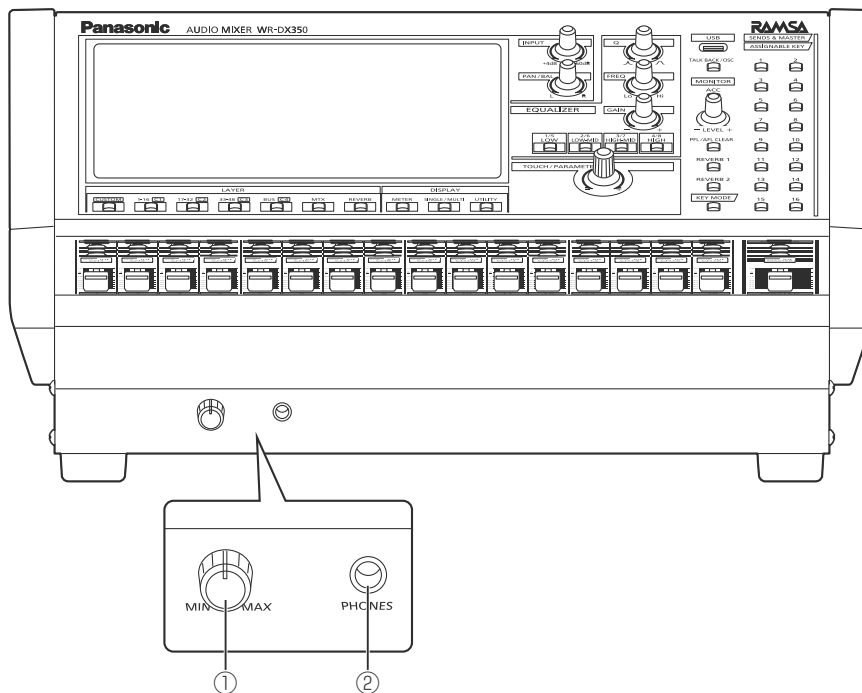


重要

- カードスロット1に標準装備されているWR-PC002は取り外さないでください。



## フロントパネル



### ①ヘッドホンボリューム

ヘッドホン出力端子からの出力レベルを調整します。

### ②ヘッドホン出力端子 [PHONES]

(150 mW (50 Ω)、大型複式ジャック、ステレオ不平衡)

個々の入力信号やミキシングした音をヘッドホンで確認するときに使います。

# 基本操作

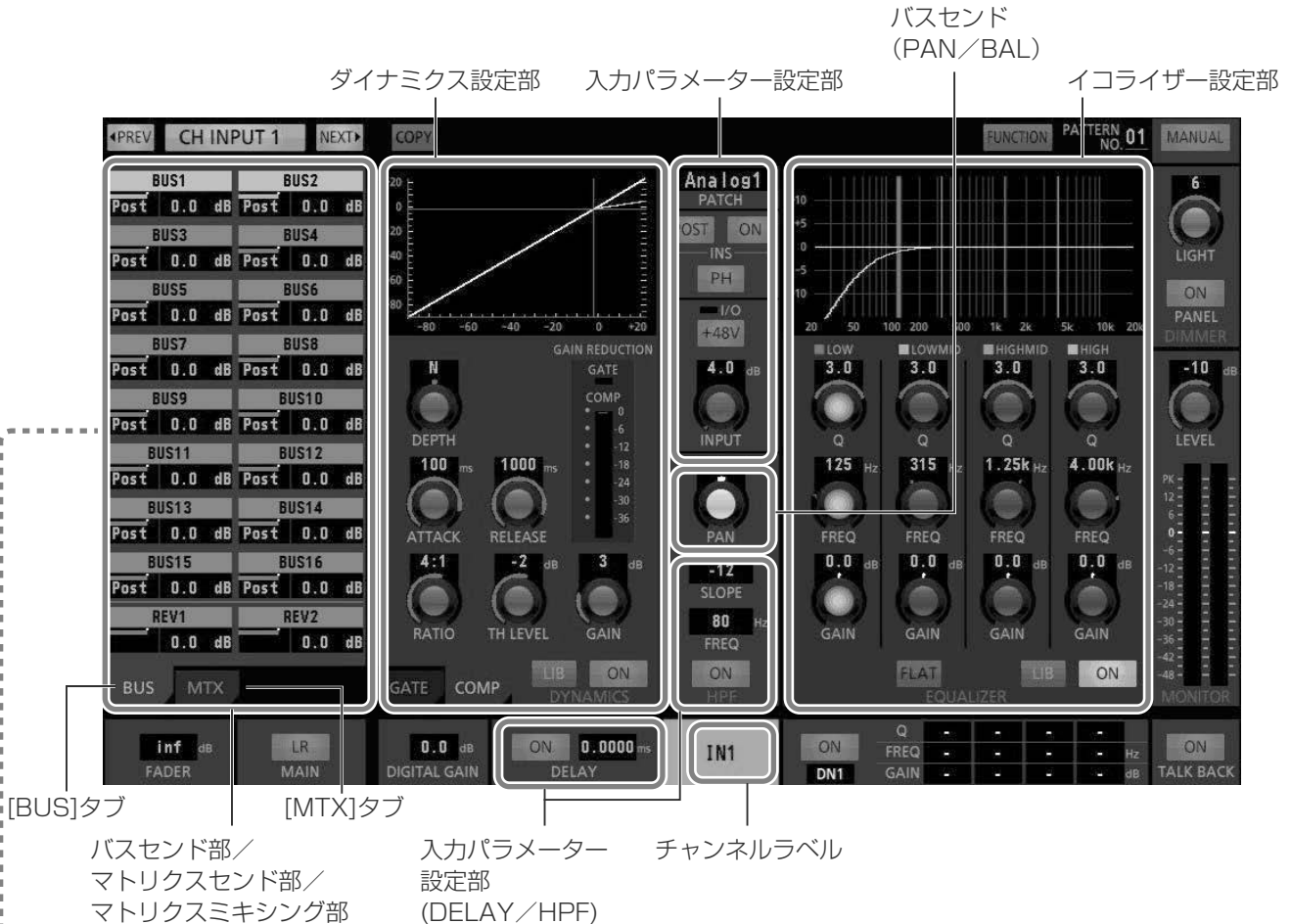
## 画面の基本操作

基本操作を行うために使用する「シングルチャンネル」画面と「メーター」画面、「モニター」画面の構成を以下に示します。画面操作の詳細は、「取扱説明書 応用操作編」をお読みください。

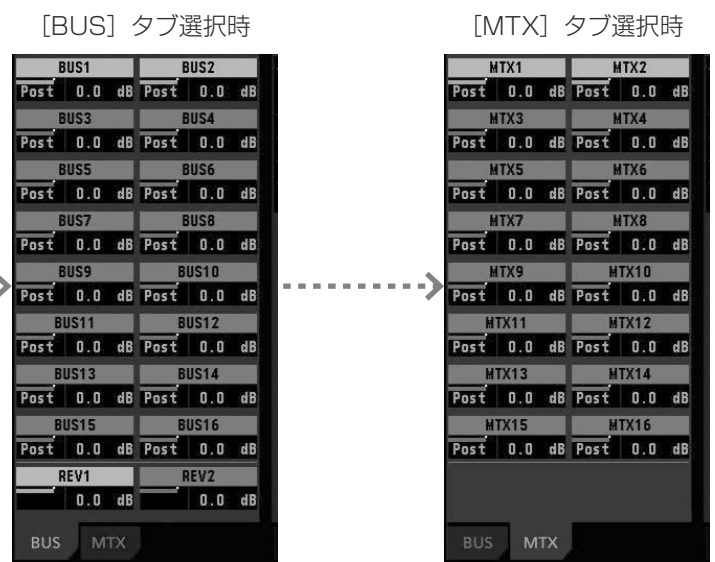
### ■ シングルチャンネル画面

本体チャンネルフェーダーモジュールの各チャンネル [ACC] スイッチを押すと、画面上に選択されたチャンネルの「シングルチャンネル」画面が表示されます。

基本操作

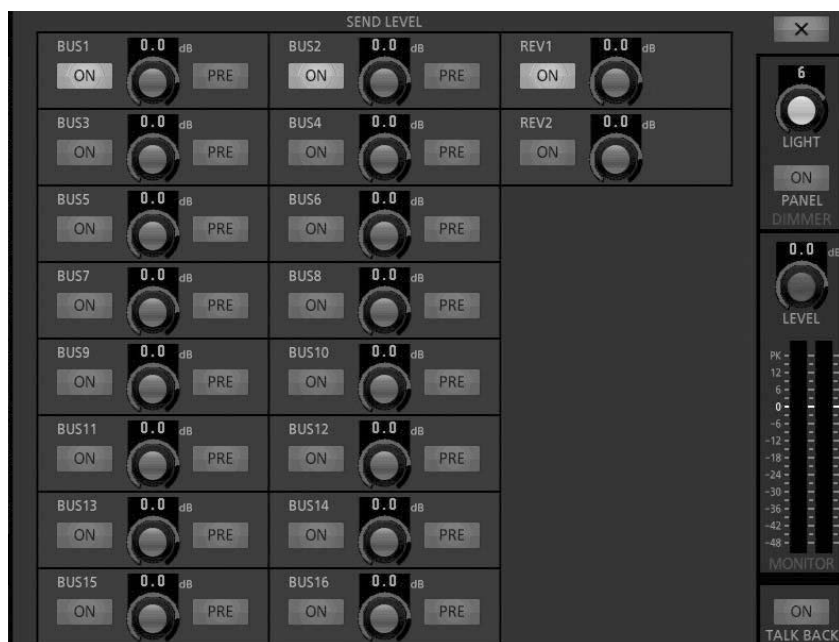


「シングルチャンネル」画面左部は [BUS] / [MTX] タブをタッチすることで切り替わります。



また、インプットチャンネル選択時に「バスセンド部／マトリクスセンド部／マトリクスミキシング部」をタッチすると、「バスセンド」画面、「マトリクスセンド」画面を表示します。

「バスセンド」画面



「マトリクスセンド」画面



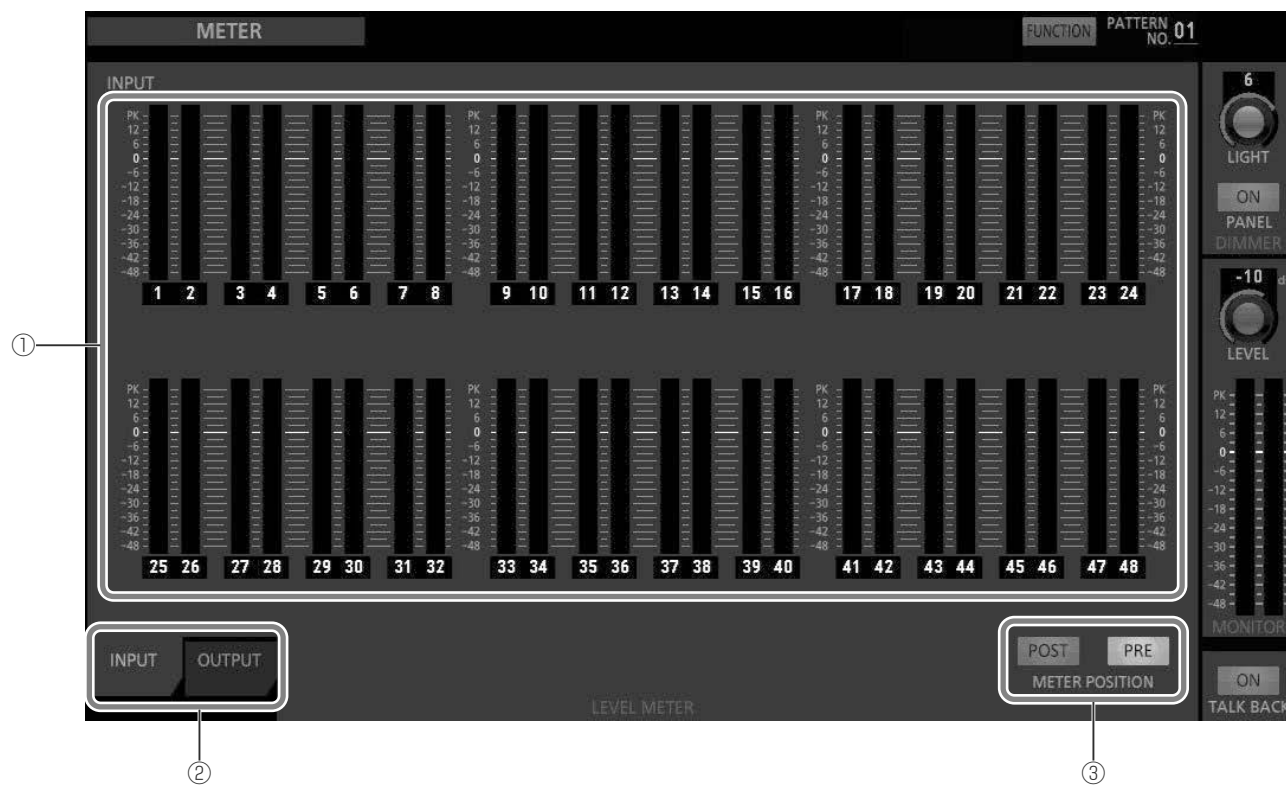
- マトリクスチャンネル選択時は、バス／MAIN LRからの信号をミキシングする、「マトリクスミキシング」画面を表示します。
- バスチャンネル選択時は、「マトリクスセンド」画面を表示します。
- 「マトリクスミキシング」画面、「マトリクスセンド」画面は画面右上の[×]スイッチをタッチすることで、「シングルチャンネル」画面に戻ることができます。

# 基本操作

## ■ メーター画面

メーター画面では、レベルメーターを一覧で確認することができます。

本体のディスプレイコントロール部の [METER] スイッチを押すと、画面上に「メーター」画面を表示します。



### ① レベルメーター部

レベルメーターを一覧表示します。

### ② IN/OUTタブ選択部

「メーター」画面での表示対象を [INPUT] または [OUTPUT] から選択します。

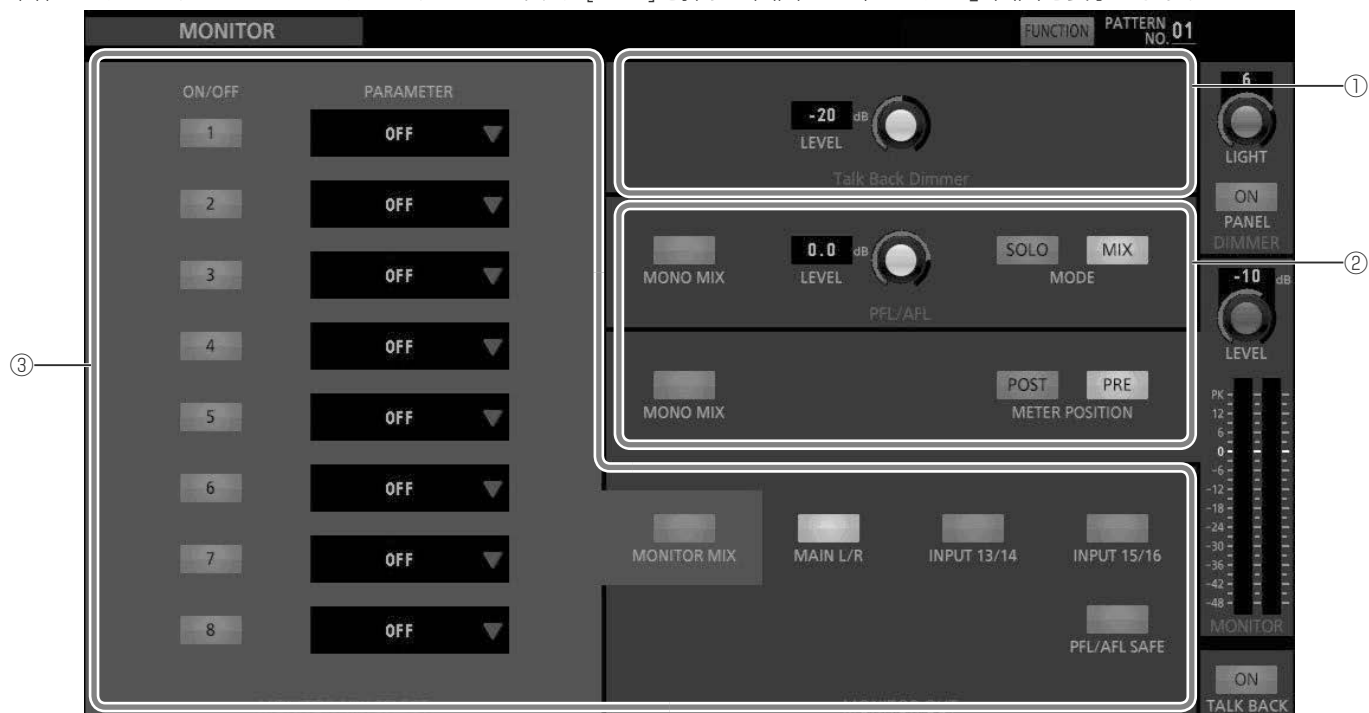
### ③ POST/PRE設定部

メーターポジションのポストフェーダー/プリフェーダーの設定を行います。

## ■ モニター画面

「モニター」画面では、モニターの設定を行います。

本体モニターセクションのモニターアクセススイッチ[ACC]を押すと画面上に「モニター」画面を表示します。



### ① Talk Back Dimmer設定部

出力の減衰レベルの設定をします。

減衰レベルは (0 dB、-10 dB、-20 dB、-30 dB、inf dB) より設定ができます。

### ② モニター設定部

モニターの出力設定を行います。詳しい設定方法は「取扱説明書 応用操作編」をお読みください。

### ③ モニターソース選択部

モニターの入力信号を選択します。詳しい設定方法は「取扱説明書 応用操作編」をお読みください。

## 音を出すために

本書（基本操作編）では、本機を音声出力が可能な状態にするまでの操作方法について、次の順序で説明します。

1. 基本的な接続例
2. 電源の入れかた／切りかた
3. インพุットチャンネルの設定  
モノラル・ステレオインพุットモジュールで、バスセンドを設定、出力レベルの調整を行います。
4. バスチャンネルの設定  
バスモジュールで、出力レベルの調整を行います。
5. マトリクスチャンネルの設定  
マトリクス部で、ミキシングレベルの設定、マトリクス出力レベルの設定を行います。



- 以下の操作は、工場出荷時の状態（デフォルト設定）から行ってください。
- 工場出荷の状態に戻すには、「取扱説明書 応用操作編」をお読み下さい。

### 1 基本的な接続例

基本的な接続例として、次の機器を23ページのシステム系統図にしたがって接続してください。

	接続機器	接続先
入力	マイク	[INPUT1] 端子 (XLR)
	CDプレーヤー	[INPUT15および16] 端子 (アナログ入力)
出力	マトリクス1用 アンプ&スピーカー	[OUTPUT1] 端子 (XLR)
	モニター用 アンプ&スピーカー	[MONITOR OUTPUT L, R] 端子 (XLR)

### 2 電源の入れかた／切りかた



- 過負荷によるスピーカーの破損や、突然大きな音が出て耳を痛めるなどのけがを防止するために、下記の手順を必ずお守りください。

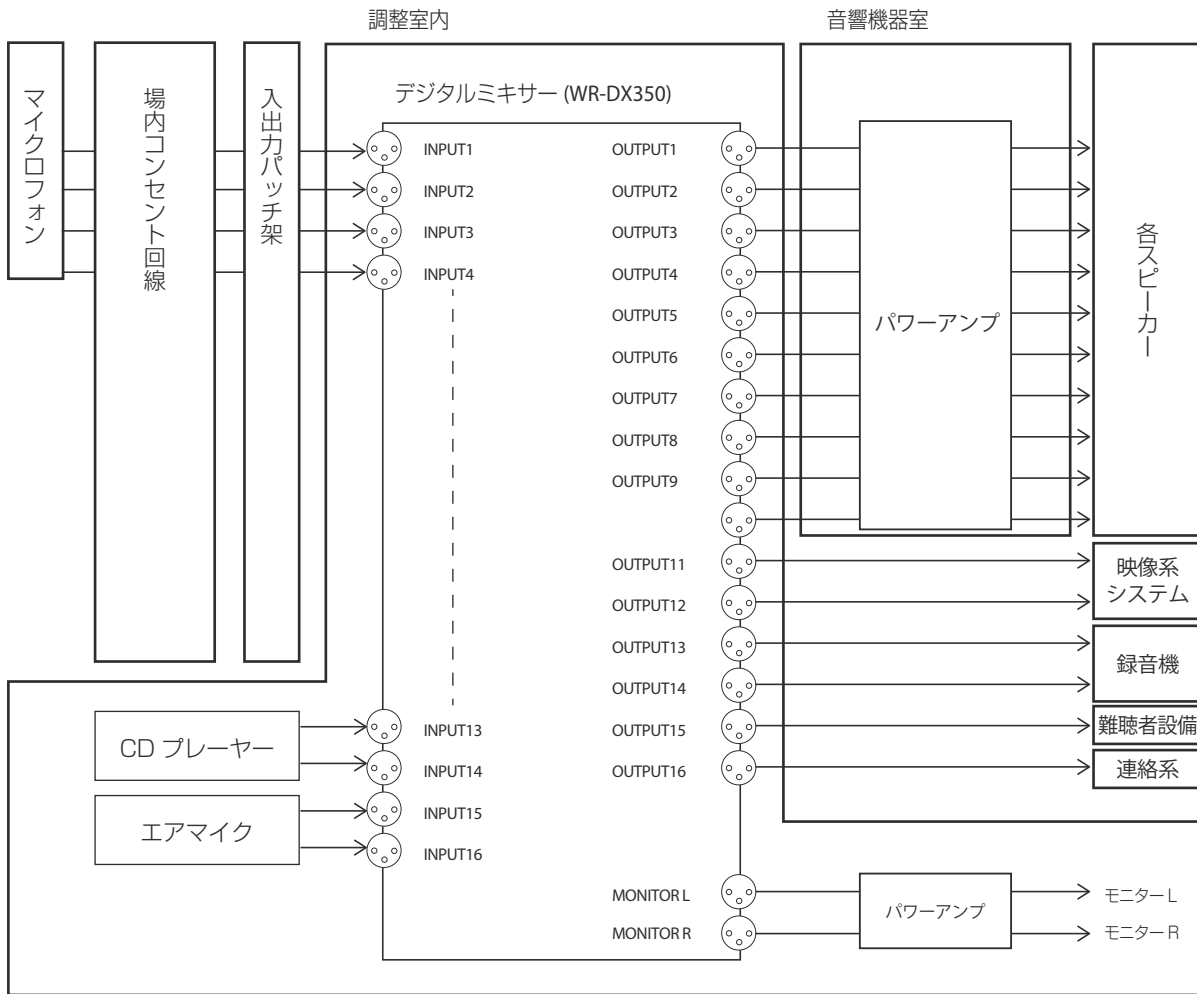
電源を入れるときは、入力機器側から順に入れてください。

1. 入力機器（CDプレーヤー、マイク）の電源をONにする
2. 本機の電源をONにする
3. アンプの電源をONにする

電源を切るときは、電源を入れたときと逆の手順で切ります。

1. アンプの電源をOFFにする
2. 本機の電源をOFFにする
3. 入力機器の電源をOFFにする

# システム系統図



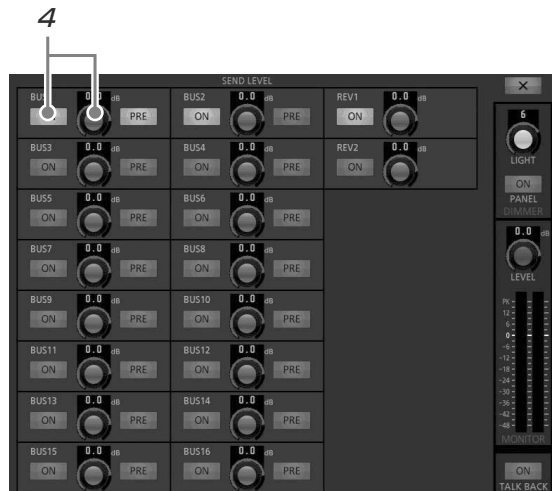
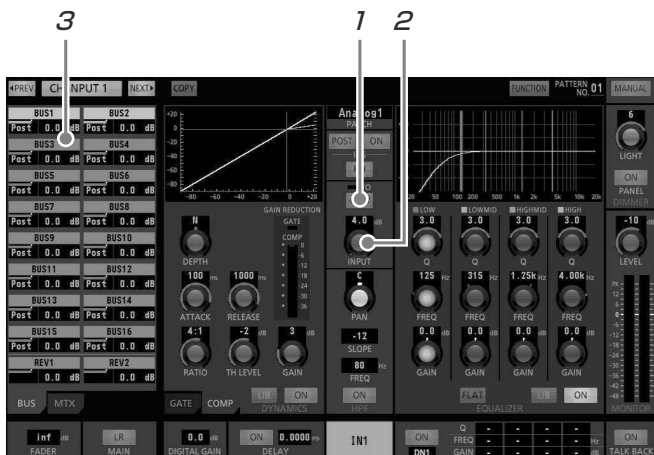
# 基本操作

## 3 インプットチャンネルの設定

モノラルインプットモジュール、ステレオインプットモジュールの操作方法です。

本体フェーダーレイヤー操作部で [1-16] スイッチを押し INPUTレイヤーを選択します。

設定したいチャンネルの本体チャンネルフェーダーモジュールの [ACC] スイッチを押して画面に「シングルチャンネル」画面を表示します。



1. ファンタム電源が必要なマイクが接続されているときは、画面上の [+48V] スイッチをタッチし、電源を供給します。
  - ONの際は [+48V] スイッチが点灯します。
2. 本体チャンネルコントロール部のトリムノブ [INPUT] を回し、入力レベルを調整します。
  - 本体チャンネルフェーダーモジュールのシグナル/ピーク表示灯 [SIG/PK] が通常緑色でときどき橙色に点灯し、かつ赤色に点灯しないレベルに調整してください。
3. 画面上のバスセンド部、または [MAIN LR] スイッチをタッチして、送り出し先のバスチャンネル [BUS1~16] または [MAIN LR] を選びます。
  - メインLRを選択する際は、[MAIN LR] スイッチをタッチしてON (点灯) にします。
  - バスを選択する場合はバスセンド部をタッチし、「バスセンド」画面を表示します。手順4にて、「バスセンド」画面上での設定を行います。
4. バスへセンドする場合は「バスセンド」画面上でセンドしたいバスの [ON] スイッチをタッチしてセンドをON (点灯) にします。また、該当チャンネルのノブをタッチして選択し、本体チャンネルコントロール部の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、送出レベルを調整します。
  - ノブ上部の数値表示が変化します。

5. 本体チャンネルフェーダーモジュールの [ON] スイッチを押します。
  - スイッチが点灯します。
6. 本体フェーダーを徐々に上げて、バスに信号を送ります。
  - 本体チャンネルフェーダーモジュール [PFL/AFL] スイッチをON (点灯) にすると、プリフェーダー信号をモニタースピーカーからモニターできます。



## 4 ミキシングバスチャンネルの設定

バスモジュールの操作方法です。

マスターLRモジュールで最終的なステレオミキシングを行います。

本体フェーダーレイヤー操作部で [BUS] スイッチを押しバスレイヤーを選択します。



4 3

1. 本体チャンネルフェーダーモジュールの [ON] スイッチを押します。
  - スイッチが点灯します。
2. 本体フェーダーを徐々に上げて、0 dB程度に設定します。
  - 本体チャンネルフェーダーモジュールの [PFL/AFL] スイッチをON (点灯) にすると、アフターフェーダー信号をモニターできます。
3. マスターLRモジュールへ信号を送るときは、バスチャンネルで [ACC] スイッチを押して画面に「シングルチャンネル」画面を表示し、画面上の [MAIN LR] スイッチをタッチします。
  - スイッチが点灯します。
4. マトリクスへセンドするときは、マトリクスセンド部をタッチします。
  - 「マトリクスセンド」画面を表示します。

4



5. 「マトリクスセンド」画面上でセンドするマトリクスの [ON] スイッチをタッチしてセンドをON (点灯) にします。また、該当チャンネルのノブをタッチして選択し、本体チャンネルコントロール部の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、送出レベルを調整します。

- ノブ上部の数値表示が変化します。

# 基本操作

## 5 マトリクスチャンネルの設定

「シングルチャンネル」画面のマトリクスミキシング部の操作方法です。

本体フェーダーレイヤー操作部で [MTX] スイッチを押しマトリクスレイヤーを選択します。

2



4. 手順 1 で選択した本体チャンネルフェーダーモジュールのマトリクスチャンネルの [ON] スイッチを押します。

- スイッチが点灯し、マトリクス出力に信号が送出されます。

5. 該当するマトリクスチャンネルの本体フェーダーでマトリクス出力のレベルを調整します。

手順 1～5 の操作をくり返し、各マトリクスチャンネルの設定を行います。

1. 本体チャンネルフェーダーモジュールの設定したマトリクスチャンネル [MATRIX1～16] の [ACC] スイッチを押します。

- [ACC] スイッチが点灯し、画面上に選択したチャンネルの入力情報および出力レベルが表示されます。

2. 画面上のマトリクスミキシング部をタッチします。

- 「マトリクスミキシング」画面が開きます。

3. 該当チャンネルの [ON] スイッチをタッチして、出力を有効にします。

必要に応じて該当チャンネルのノブをタッチして選択後、本体 [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、マトリクスチャンネル入力レベルを調整します。  
手順 2、3 の操作をくり返し、各マトリクスチャンネルの設定を行います。

3



## モニター機能の設定

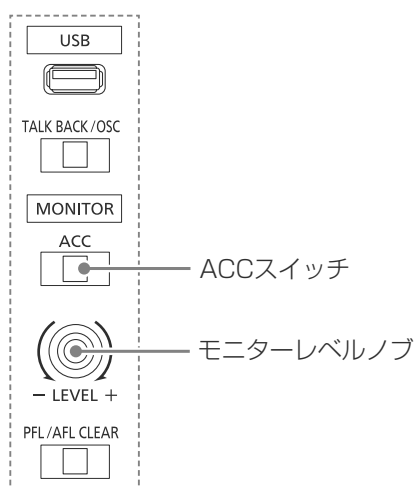
本書では、各種モニター機能の使用方法について、次の順序で説明します。

1. バスモニターの設定
2. PFL/AFLの設定
3. トークバック/オシレーターの設定

### 1 バスモニターの設定

モニター機能設定は、次の手順で行います。

1. 本体モニターセクションの [ACC] スイッチを押します。



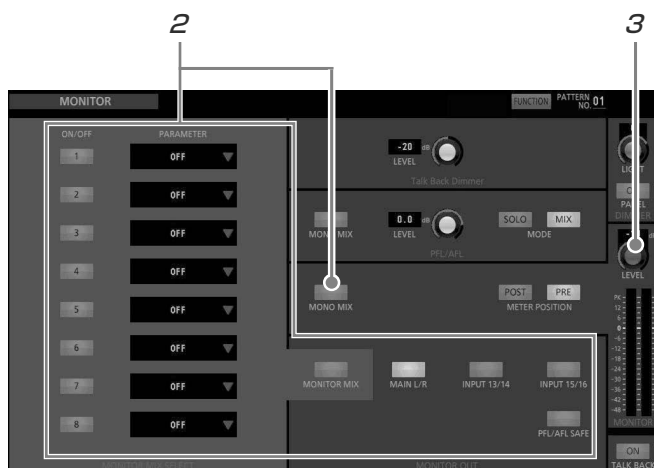
- 本体モニターセクションの[ACC]スイッチが点灯し、画面に「モニター」画面が表示されます。

2. モニターソース選択部の[MONITOR MIX],[MAIN L/R],[INPUT 13/14],[INPUT 15/16]からモニターソースとして使用するソースをタッチして選択します。

- 選択したスイッチが点灯します。
- [MONITOR MIX]スイッチを選択した場合の詳しい設定方法は「取扱説明書 応用操作編」をお読みください。
- ステレオのモニターソースをモノラルソースとして扱う場合には、[MONO MIX]スイッチをタッチして選択します。

3. 画面上の [LEVEL] ノブをタッチして選択し、本体チャンネルコントロール部の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、[MONITOR OUTPUT L, R] 端子に信号を送ります。

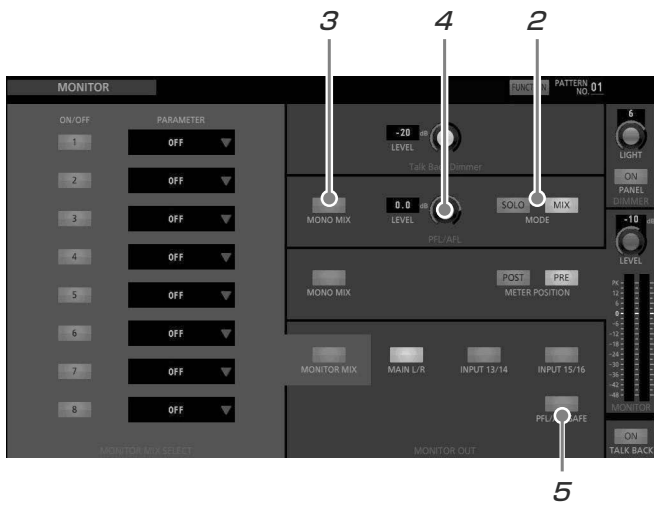
- 本体モニターセクションのモニターレベルノブでもモニターの出カレベルを調整することができます。



# 基本操作

## 2 PFL/AFLの設定

各チャンネルのフェーダー前後（PFL/AFL）のモニターを行うことができます。



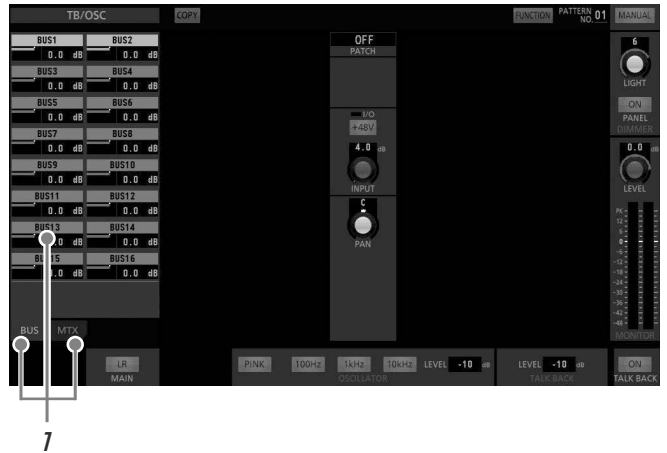
1. PFL/AFLを行いたいチャンネルの本体チャンネルフェーダーモジュールの [PFL/AFL] スイッチをON（点灯）にします。
2. 画面上のPFLモード選択スイッチを設定します。  
SOLO：単一チャンネルのPFL/AFLが選択できます。  
MIX：同時に複数チャンネルのPFL/AFLが選択できます。
  - SOLOモードを選択すると単一のチャンネルのPFL/AFLのみをONにすることができます。この際、直前にPFL/AFLがONになったチャンネルのみモニターされます。
  - MIXモードを選択すると複数のチャンネルのPFL/AFLをONにできます。この際、PFL/AFLがONになっているチャンネルの音声をすべてミックスしてモニターされます。
  - [SOLO] [MIX] スイッチで設定を切り替えるといったん選択されているPFL/AFLがすべてOFFになります。
3. 画面上の [MONO MIX] スイッチをタッチします。
  - ON（点灯）にすると、PFL/AFL出力からのステレオソースをモノラルソースとして扱います。  
点灯：モノラルミックス状態  
消灯：ステレオ状態
4. 画面上の [LEVEL] ノブをタッチして選択し、本体チャンネルコントロール部の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回してPFL/AFL出力レベルを調整します。
5. 画面上の [PFL SAFE] スイッチをON（点灯）にするとモニターソース選択部で選択されているソースの音声のみをモニターできます。
  - PFL、AFLのモニター出力が割り込みません。
6. 本体モニターセクションの [PFL/AFL CLEAR] スイッチの点灯時に押し、すべてのチャンネルのPFL/AFLを解除できます。

## 3 トークバック/オシレーターの設定

トークバックおよびオシレーターをバスチャンネルに出力します。

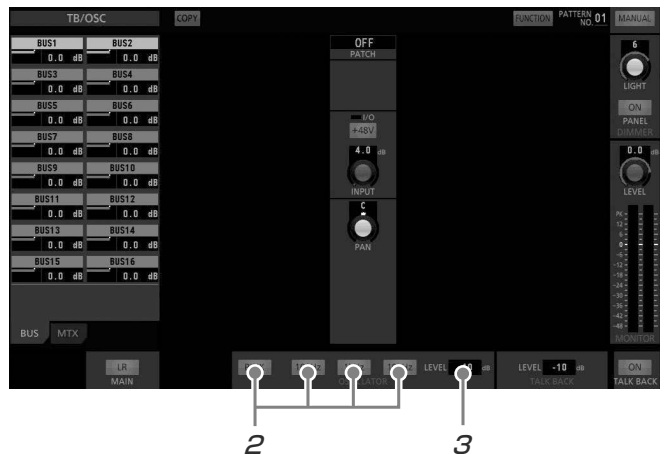
本体モニターセクションの [TALK BACK/OSC] スイッチを押して「トークバック/オシレーター」画面を表示させます。

### ●出力先を設定する



1. 画面上バスセンド部またはマトリクスセンド部から、「バスセンド」画面または「マトリクスセンド」画面を開きます。この際、「バスセンド」画面を表示する場合は[BUS]タブ、「マトリクスセンド」画面を表示する場合は[MTX]タブをタッチして選択します。  
トークバックおよびオシレーターの音声を出力するチャンネルをONにし、本体 [TOUCH/PARAMETER] ノブを用いて送出レベルを調整します。

### ●オシレーターを設定する



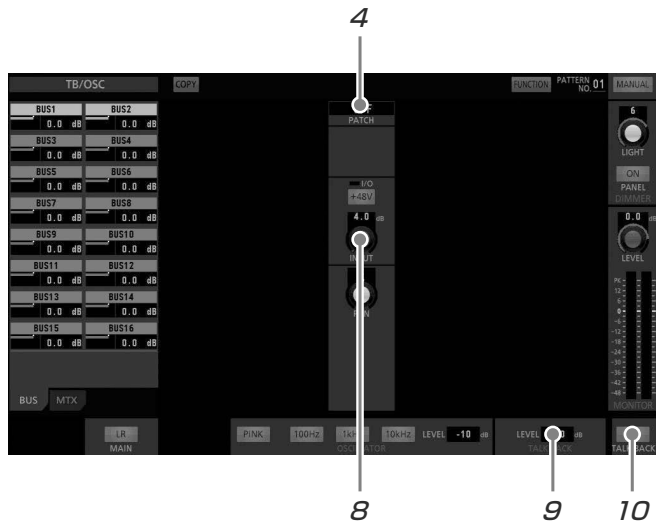
2. 画面上のオシレーター周波数選択スイッチ [PINK]、[100Hz]、[1kHz]、または [10kHz] をタッチし発振周波数を選択します。
  - 選択したスイッチが点灯し、手順 1 で選択したチャンネルにオシレーター信号が入力されます。



- トークバックスイッチがONのときは、オシレーターは使用できません。

3. 画面 [OSCILATOR LEVEL] エリアをタッチして選択し、本体チャンネルコントロール部の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回してオシレーターの出力レベルを調整します。

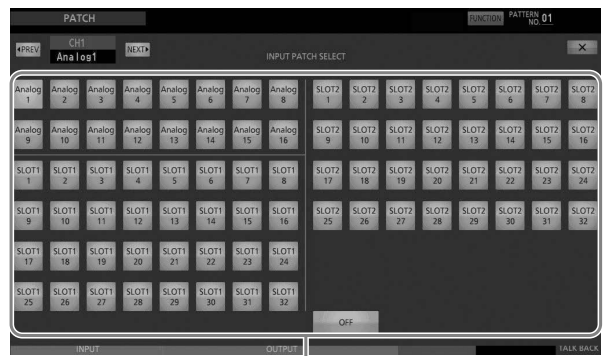
● トークバックを設定する



4. パッチ設定表示をタッチし、「パッチ設定」画面を表示します。



5. トークバックチャンネルの [▼] スイッチをタッチし、以下の「パッチ選択」画面を表示します。



6. 各回線の選択肢からトークバックチャンネルに割り当てる回線をタッチして選択し、[×] スイッチをタッチして「パッチ選択」画面を閉じます。
7. 本体モニターセクションの [TALK BACK/OSC] スイッチを押して「トークバック/オシレーター」画面を再度表示します。
8. 本体チャンネルコントロール部のトリムノブ [INPUT] を回し、トークバックマイクの入力レベルを調整します。



● ファンタム電源が必要なマイクをご使用の際は [+48V] スイッチをタッチし、ON (点灯) にしてください。

9. 画面 [TALK BACK LEVEL] エリアをタッチして選択し、本体チャンネルコントロール部の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回してトークバックの出力レベルを調整します。
10. トークバックスイッチをONにすると、手順 1 で選択したチャンネルにトークバック信号が入力されます。



● オシレーター信号出力中は、トークバック出力をONにすることはできません。オシレーター周波数選択スイッチ [PINK]、[100Hz]、[1kHz]、[10kHz] をすべてOFFにした状態で、トークバックスイッチをONにしてください。

● 手順 4、5 で行ったパッチ設定をしていない状態では、トークバックの [ON] スイッチはタッチしても反応しません。

# 設置

## 設置上のお願い



- 工事は必ず販売店に依頼してください。
- 工事を行う前に、接続する機器の電源スイッチを「切」にしてください。また、「安全上のご注意」をよく読んでその指示にしたがってください。接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 本装置を住宅環境で使用すると無線障害を引き起こす可能性があります。
- 接地接続は必ず、主電源プラグを主電源につなぐ前に行ってください。また、接地接続を外す場合、必ず主電源プラグを主電源から切り離してから行って下さい。

設置工事は電気設備技術基準にしたがって実施してください。

### 本機は屋内専用です

屋外での使用はできません。

長時間直射日光のあたるところや、冷・暖房機の近くには設置しないでください。変形・変色または故障・誤動作の原因になります。

### 以下の場所には設置しないでください

- 直射日光のあたる場所や温風吹き出し口の近く
- 湿気やほこり、振動の多い場所
- 温度差の激しく結露しやすい場所
- ちゅう房など蒸気や油分の多い場所
- スピーカーやテレビ、磁石など、強い磁力を発生するものの近く
- 塩害や腐食性ガスの発生する場所
- 水滴や水沫がかかる場所
- ケーブルなどが容易に破壊されるような場所

### 雑音源は避ける

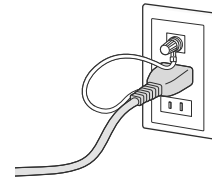
- トランシーバー、トランス、調光器、CRTモニターなどからできるだけ離してご使用ください。誘導ノイズを受ける可能性があります。
- 電灯線などの雑音源にケーブルを近づけると、ノイズが発生する場合があります。そのときは、雑音源からできるだけ離すように配線するか、本機の位置を変えてください。

### 静電気について

静電気による破損を防止するために、作業をはじめの前に本機以外の金属部に手を触れ、人体に帯電している静電気を放電してください。

### アース（接地）について

ご使用前に、アースが正しく確実に取り付けられているかご確認ください。アース端子付きコンセントを使用される場合は、接地抵抗値（100 Ω以下）をご確認ください。



### 電源について

本機の電源スイッチは後面にあります。電源スイッチは容易に操作できるようにしてください。

### 電源コードの取り付け方

アース接続は、必ず電源プラグを主電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続を外す場合は、必ず電源プラグを主電源から切り離してから行ってください。

- (1) 電源制御ユニットを介して接続する。
- (2) 電源コンセントの近くに設置し、電源プラグを介して接続する。
- (3) 3.0 mm以上の接点距離を有する分電盤のブレーカーに接続する。ブレーカーは、保護アース導体を除くすべての極が遮断できるものを使用する。

### 使用電源は

AC100 Vです。消費電力の大きな機器（複写機、空調機器など）と同じコンセントから電源をとらないでください。

### アンバランス（不平衡）接続の場合は

シャーシ電位の違いによる誘導ノイズを受けやすくなりますので、各機器間のシャーシ電位を合わせて使用してください。

- 各機器間の電源位相を合わせる
- 電源系統を統一する
- 各機器のグラウンド端子またはシャーシを接続する

## 設置のしかた

本機は本機の質量に耐える水平な場所に据え置いてお使いください。

ラックマウント設置の場合、ラック内温度は45℃以上にならないようにしてください。据え置きの場合は、壁や天井などから10 cm以上離して設置してください。

設置の際、後面のファン、および底面通風孔をふさがないでください。

市販のテーブルまたはミキサースタンド等に取り付けて使用する場合は、取扱説明書等で耐荷重をご確認ください。



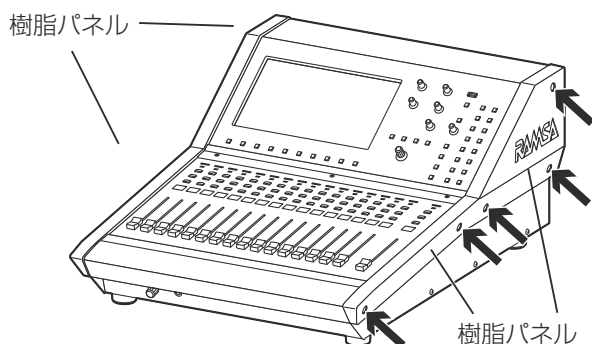
- 本体の不良による脱落・転倒事故以外の取り付け方法不備などによる脱落・転倒事故に対しては、弊社は一切責任を負いかねますので、取り付け場所や取り付け方法の設計は十分な注意をお願いします。強度が不足する場合は十分な補強をし、安全を確認してから取り付けてください。
- 安全のため十分な脱落・転倒防止対策を施し、必ず定期的に保守点検を実施してください。

## ラック設置のしかた

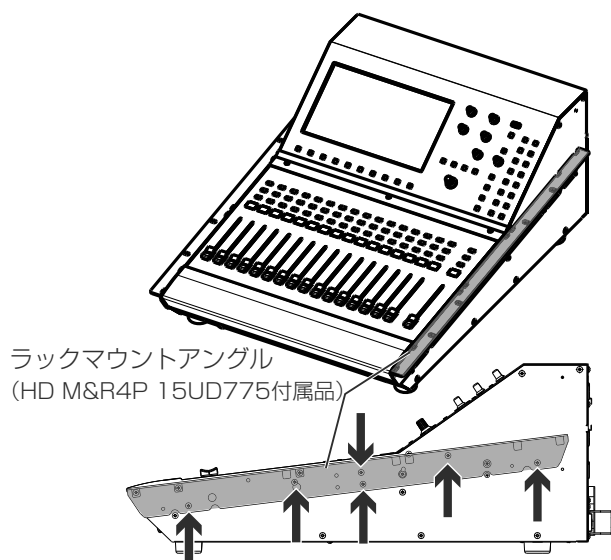
本機は、専用のスロープ付ミキサー&ラック (HD M&R4P 15UD775 : 別売品) に取り付けることができます。

※ スロープ付ミキサー&ラック (HD M&R4P 15UD775 : 別売品) 以外のラック (EIA規格対応) に取り付けが必要な際は、ラックマウントアングル (YBSKG005 : 別売品) をご使用ください。

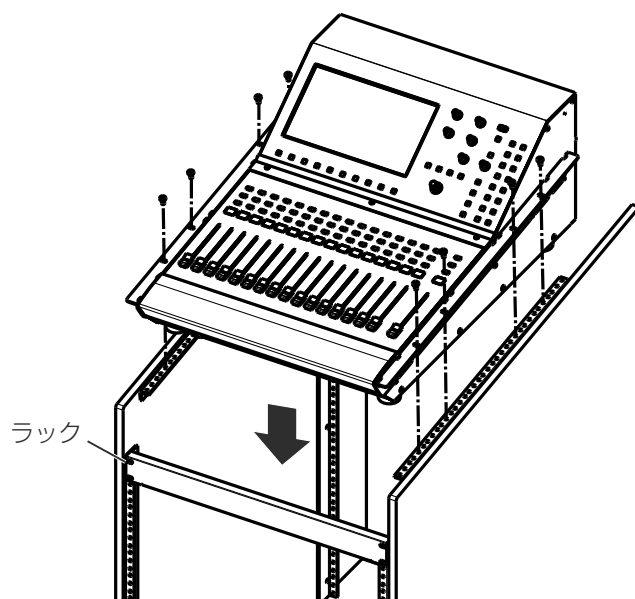
1. 本機の側面の樹脂パネルのねじ (左右10か所) を取り外し、計4つの樹脂パネルを取り外します。



2. スロープ付ミキサー&ラック (HD M&R4P 15UD775) に付属のねじ (左右12か所) でラックマウントアングルを本機側面に取り付けます。



3. ラックに搭載し合計8本のねじで固定します。



ラック取付ねじ (M5) の締付トルクは 157 N・cm ~ 177 N・cm {16 kgf・cm ~ 18 kgf・cm} です。

ラックマウントアングル取付ねじ (M4) の締付トルクは 88 N・cm ~ 108 N・cm {9.0 kgf・cm ~ 11.0 kgf・cm} です。

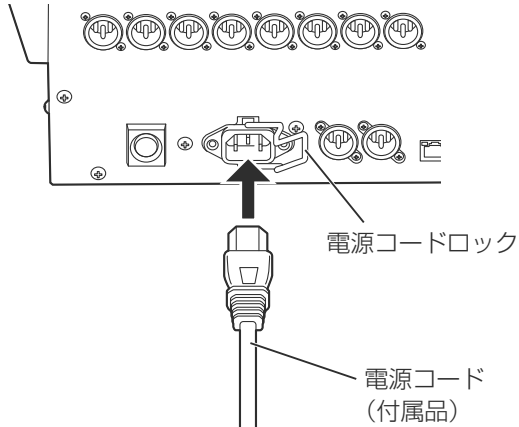


- 本機の電源スイッチは後面にあるため、ラックマウント設置の際は電源制御ユニットのご使用をおすすめします。安全のため十分な脱落・転倒防止対策を施し、必ず定期的に保守点検を実施してください。

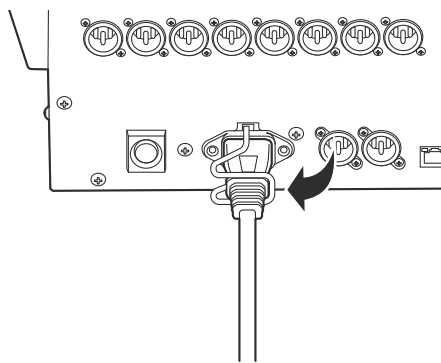
## 電源コードの取り付けかた

電源コードは電源コードロックで確実に固定してください。

1. 電源コードロックを外側に倒した状態で、付属の電源コードを奥まで差し込みます。



2. 電源コードをインレットに確実に差し込んだことを確認し、電源コードロックを内側に倒しロック機能を有効にします。



- 電源コードを取り外す際は、電源コードロックを外側に倒しロックを解除してから作業を行ってください。

## ケーブルについて

本機を接続するときは、以下のケーブルを使用します。必要に応じて用意してください。

接続する機器側の端子については、各機器の取扱説明書をお読みください。

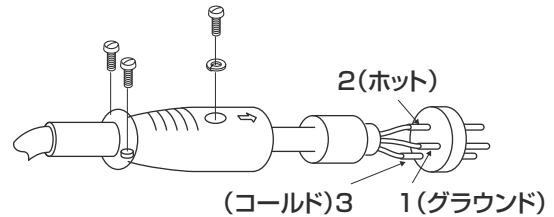
### ■ アナログ音声用

- [INPUT1~16] 端子に接続するケーブルは必ずシールド線を使用してください。また配線距離が長くなるときは、誘導ノイズに強い4芯よりシールド線 (4E6など) を使用してください。
- 不平衡出力機器を接続する場合には、配線距離は10 m以内を目安に配線してください。平衡出力機器を接続する場合にも、配線距離は50 m以内を目安にしてください。

### XLR 3ピン (オス、XLR-3-12C相当) コネクター付きケーブル

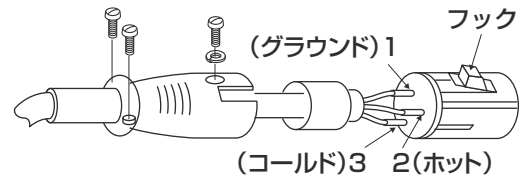
[INPUT1~16]、[MONITOR OUTPUT L、R] 端子との接続に使用します。

- 接触不良によるノイズを避けるために、金メッキプラグを使用してください。
- スピーカー線に近づけないでください。機器の動作が不安定になり、発振する場合があります。



### XLR 3ピン (メス、XLR-3-11C相当) コネクター付きケーブル

- [OUTPUT1~16] 端子との接続に使用します。
- 必ずシールド線を使用してください。また配線距離が長くなるときは、誘導ノイズに強い4芯よりシールド線を使用してください。



### ■ 制御/デジタル音声用

- [10/100BASE-T] 端子、カードスロット1、2の [PRIMARY] 端子、[SECONDARY] 端子との接続に使用します。
- 市販のLANケーブル (カテゴリー5e、カテゴリー6、カテゴリー7以上) を使用してください。



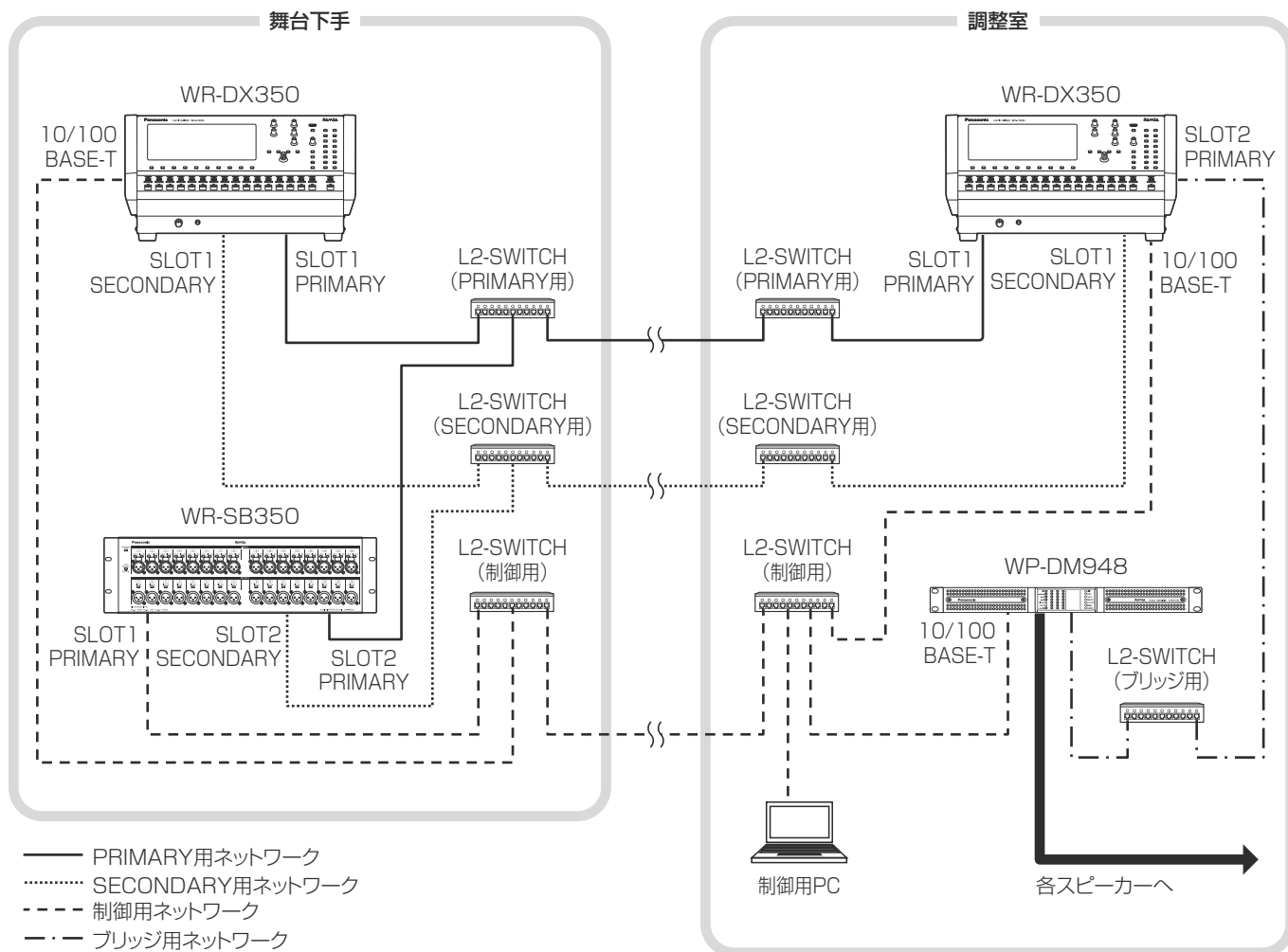
# 接続

## 接続例

本機は、Danteネットワークを利用したシステムに組み込まれることで、機能を最大限に発揮します。特に、別売りのオーディオインターフェースユニット（WR-SB350）とDante接続することで、デジタルミキサーのI/Oを拡張することができます。また、カードスロット2 [SLOT 2] に別売りの32チャンネル入出力Danteカード（WR-PC002）を接続することができます。

### ■ 小規模ホール向けリダンダンシーネットワーク

リダンダンシーネットワークでは、主回線（PRIMARY）と副回線（SECONDARY）の2回線のネットワークを用います。それぞれのネットワークの中心にネットワークハブを設置し、スター接続をすることでリダンダンシーネットワークを実現します。リダンダンシーネットワークを利用することで、主回線に断線などのトラブルが発生した場合でも、自動的に通信が副回線に切り替わり、音切れを防止します。



- Dante用のL2-SWITCHにはネットワークを制御/監視する機能（クロック同期や音声の伝送を優先させるQoSなど）が盛り込まれているものをお勧めします。
- ブリッジ用ネットワークとは、リダンダンシー接続に対応していないDante機器をリダンダンシーシステムに組み込む（ブリッジ接続する）際に使用するネットワークのことを示します。
- 音声の入出力はシステムのクロック状態が十分に安定してから行ってください。

## ミキサーランプの接続

市販のグースネック式ランプを接続します。本体後面左方に端子を装備しています。

### ランプ接続端子 [LAMP]

#### 【仕様】

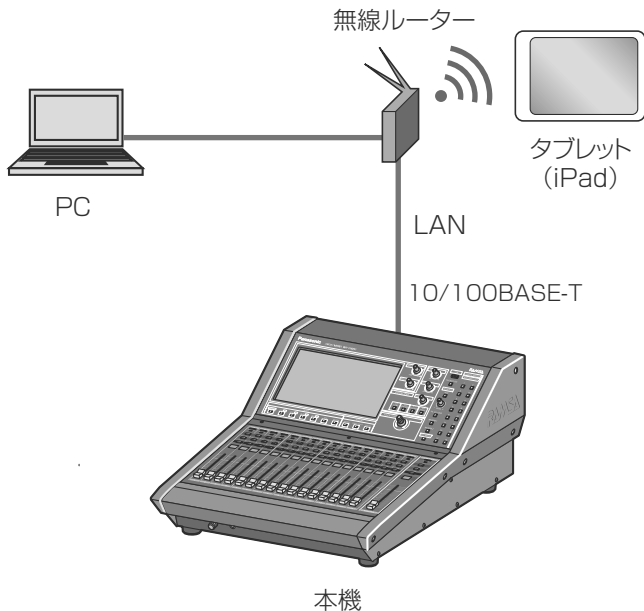
出力	: DC12 V
コネクタ	: XLR 4pin メス
電源容量	: max 5 W
コネクタピン配列	
	1 : NC
	2 : NC
	3 : GND
	4 : +12V

## PC制御

本機はPCやiPadと接続し、リモートソフトによる制御が可能です。以下に接続例を示します。

PCやiPadとの接続には、リモートソフトでのネットワークの設定が必要です。

設定方法はデジタルミキサー リモートソフト (PCソフト用 / iPad用) の取扱説明書をお読みください。



- PC制御用ネットワークは、オプションカード (32ch入出力Danteカード) で使用するネットワークとは、別のネットワークを使用してください。

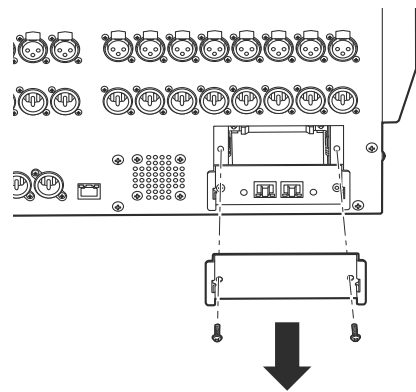
## オプションカード

### オプションカードの取り付けかた

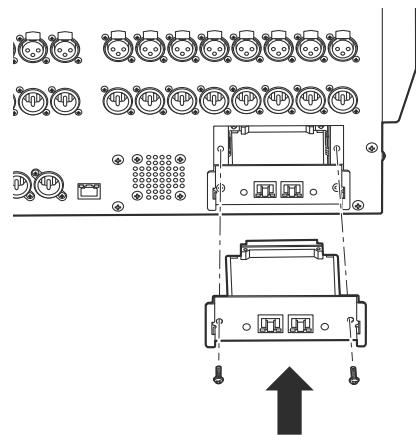
本機の後面 [SLOT 2] にはオプションカードを装着することができます。

ここでは、[SLOT 2] へ32ch入出力Danteカード (品番: WR-PC002) を取り付けの手順を例に説明します。

1. 本機の電源がOFFになっていることを確認します。
2. ねじ (2本) を外し、[SLOT 2] のブランクパネルを取り外します。



3. 人体の静電気を除去するため、オプションカードを触る前に、金属部分に手を触れます。
4. オプションカードをスロットに差し込みます。コネクタが確実に接続されていることを確認してください。



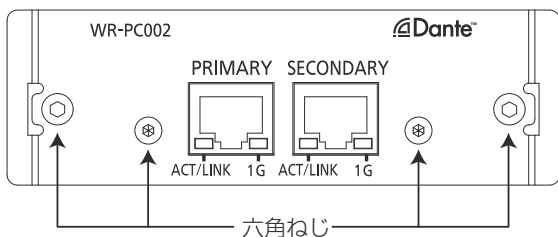
5. 手順2で外したねじ (2本) を使用し、オプションカードを固定します。締付トルクは、69 N・cm~88 N・cm {7.0 kgf・cm ~9.0 kgf・cm} です。



- Danteカードを抜き差しする際は、必ず本機の電源をOFFにして、機体の金属部分に触れるなどして人体の静電気を除去してから作業を行ってください。
- WR-PC001は使用できません。



- [SLOT 1] の六角ねじ（黒色）は取り外さないでください。



## Danteについて

Danteとは、Audinate社が開発したプロトコルで、ギガビットイーサネット対応のネットワーク環境で、サンプリング周波数/ビットレートが違う複数のオーディオ信号や、機器のコントロール信号を同時に扱える特長を持っています。Danteの詳細については、Audinate社のウェブサイトをご参照ください。

<http://www.audinate.com/>

## Dante Controllerについて

Dante Controllerは、Danteネットワークの設定とオーディオのルーティングをするためのアプリケーションソフトです。Dante™ネットワーク上の複雑な信号経路を設定する場合は、Dante Controllerを使います。Audinate社のウェブサイトをご参照ください。



- 本機との連携動作に対応している機器（WR-SB350：別売品）と組み合わせて使用する場合は、Dante Controllerを用いずに本機からDanteネットワーク上の信号経路の設定を行えます。詳しくは「取扱説明書 応用操作編」をお読みください。

## 設置後の確認

設置、配線が完了したら、必ず以下の項目を確認してください。

- ① 電源コードが電源コードロックで固定されていること（32ページ）
- ② +48 Vスイッチが正しく設定されていること（24ページ）
- ③ トークバックマイクを使用する場合、入力レベルが正しく設定されていること（29ページ）
- ④ すべての入力機器から適正レベルで音声が入力され、特定のスピーカーへ出力されること
  - 入力のレベル確認
    - シグナル/ピーク表示灯 [SIG/PK] の点灯状態で確認できます。（24ページ「インプットチャンネルの設定」）
  - スピーカーへの出力
    - 「音を出すために」（22ページ）に示した手順で出力させることができます。
- ⑤ 特定の入力機器音声スピーカー、ヘッドホンなどのすべての出力機器へ出力されること
  - モニタースピーカーおよびヘッドホンへ音を出す方法は、「モニター機能の設定」（27ページ）をお読みください。

## 設定データのバックアップ

PC用リモートソフトやUSBフラッシュメモリーを用いて本機設定データのセーブ/ロードを行うことができます。PCを使用したセーブ/ロードの方法は、デジタルミキサーリモートソフト（PCソフト用）の取扱説明書をお読みください。

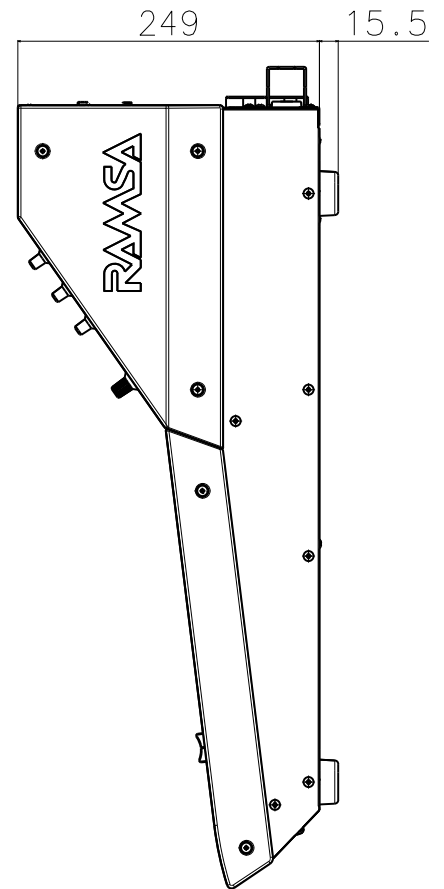
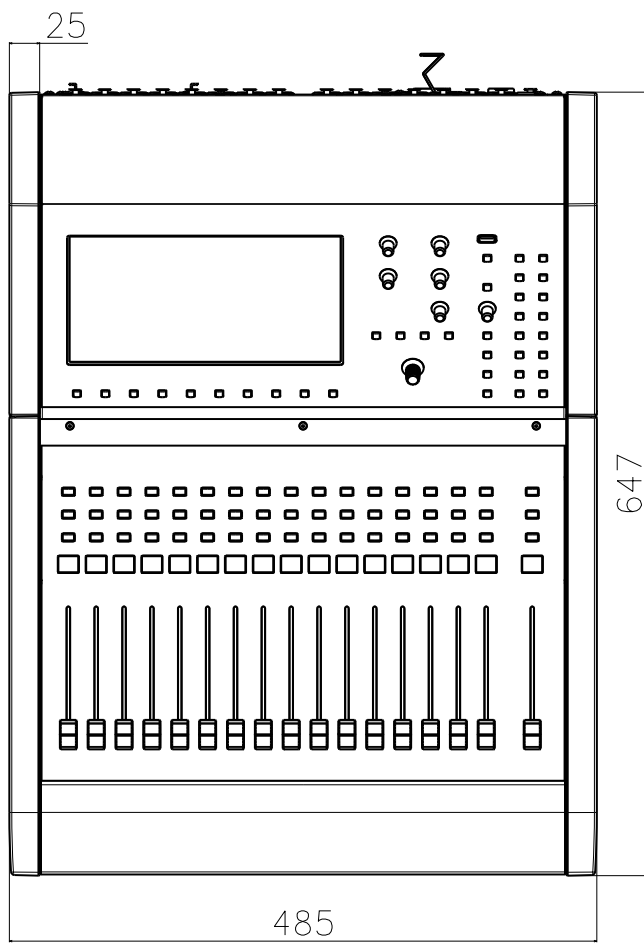
USBフラッシュメモリーを使用したセーブ/ロードの方法は「取扱説明書 応用操作編」をお読みください。



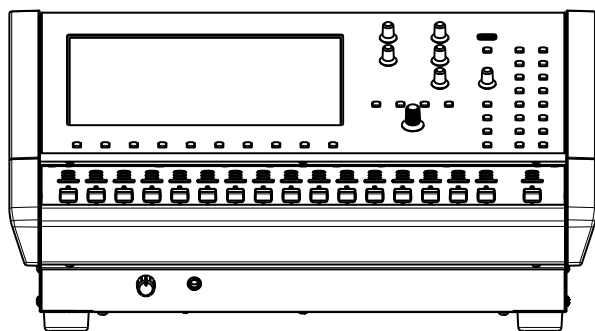
- ヘッドホン音量ノブの設定は、固定ボリュームのためバックアップされません。

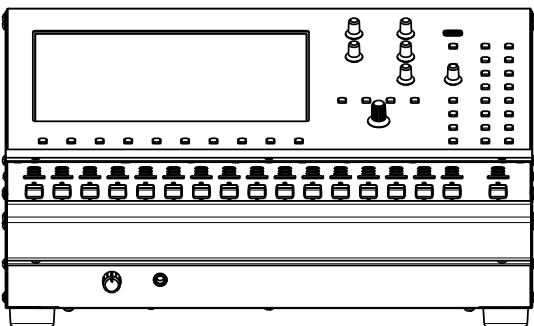
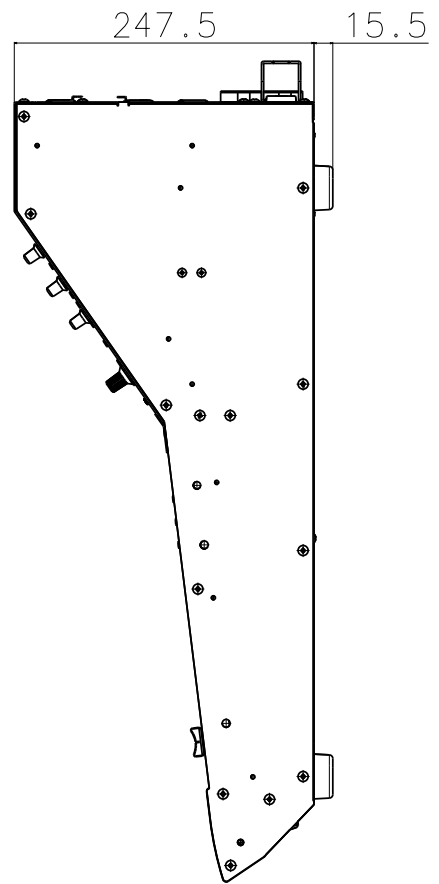
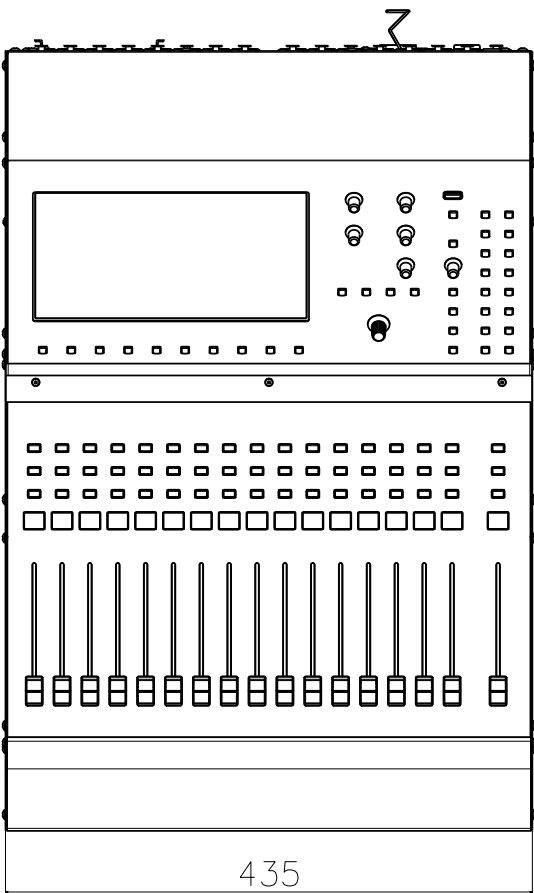
# 外形寸法図

(単位 : mm)



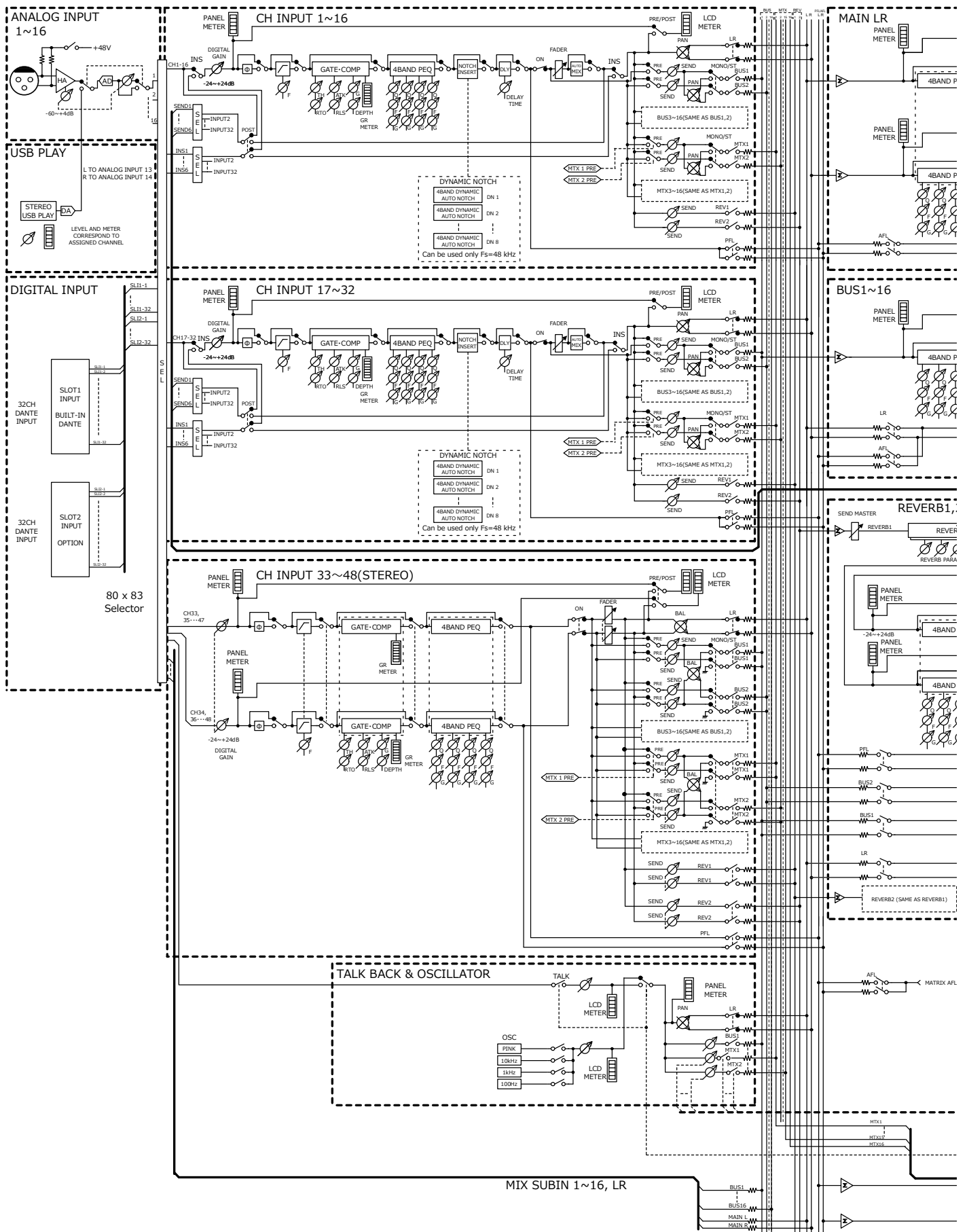
その他



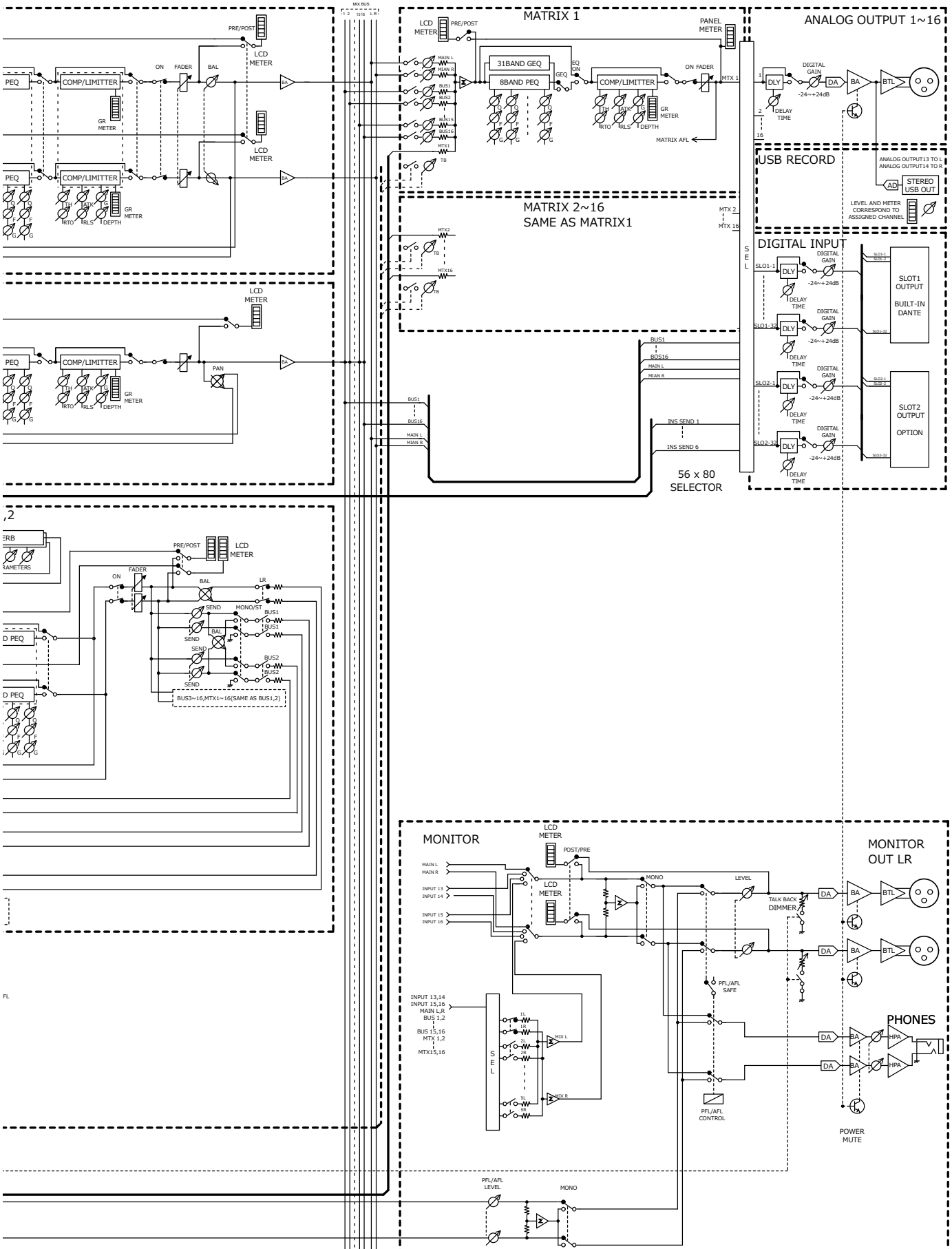


その他

# ブロックダイアグラム

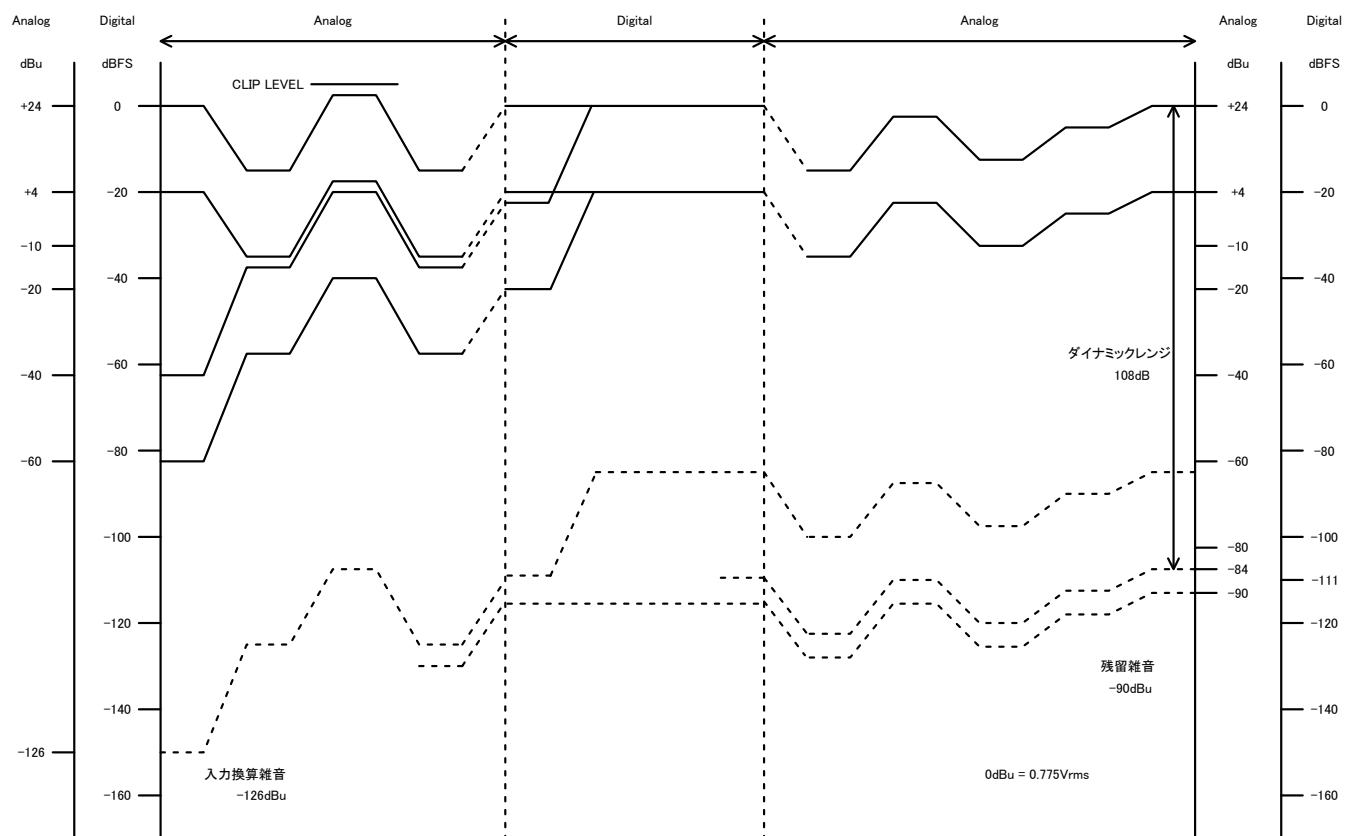


その他



その他

# レベルダイヤグラム



その他



# メッセージ一覧

メッセージ表示部



画面のメッセージ表示部に以下の3種類のメッセージが表示されます。

メッセージ	内容	対処方法
① PLEASE WAIT	時間のかかる処理中	処理の完了を待ってください。
② ALARM	アラーム発生中	本体ディスプレイコントロール部の [UTILITY] スイッチで「ユーティリティ」画面に切り替え、ステータス表示部のDante機器の接続状況、またはファンを確認してください。 「ユーティリティ」画面の操作方法は、デジタルミキサー リモートソフト (PCソフト用/iPad用) の取扱説明書、または「取扱説明書 応用操作編」をお読みください。
③ OPERATOR/ ENGINEER	操作ロック中	操作制限がかかっていますので、変更するためには、ユーザーレベルの設定が必要です。ユーザーレベルが「ADMIN」の場合は表示されません。 ユーザーレベルの設定は、「取扱説明書 応用操作編」をお読みください。

# 故障かな!?

## 修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときや、この表以外の症状のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症 状	原因・対策	参照ページ
音が出ない、または小さい	● トリムまたはフェーダーが最小になっていませんか？ →適切なレベルに調整してください。	12、14
	● 本機と入力機器（マイク・CDプレーヤーなど）は正しく接続されていますか？ 入力機器から音声は出力されていますか？ →本機と入力機器を正しく接続してください。また、入力機器から音声が出 力されているか確認してください。	16
	● 本機とアンプ、アンプとスピーカーは正しく接続されていますか？ →正しく接続してください。	16
	● アンプのボリュームを最小にしていますか？ →適切なレベルに調整してください。	—
	● 正しいバスに送出されていますか？ →正しく送出してください。	応用操作編
	● 接続した出力端子とバス（マトリクス）との関係は正しいですか？ →正しく接続、設定を行ってください。	応用操作編
操作ができない	● チャンネルON/OFFスイッチ [ON] はONになっていますか？ →ONに設定してください。	12
	● ユーザーレベル機能が設定されていませんか？ →本機は、誤操作を防止するためユーザーレベルを設定することができます。 ユーザーレベルを変更してください。	応用操作編
操作ができない	● 一部登録操作中は関連するキー以外を受け付けなくなります。 →登録操作を完了してから本来の操作を行ってください。	—
	● 「ユーティリティ」画面で、ディスプレイやコンソール盤面の明るさなどを 調整できます。 →見やすくなるように設定を変更してください。	応用操作編
電源が入らない	● 「ユーティリティ」画面で、ディスプレイやコンソール盤面の明るさなどを 調整できます。 →見やすくなるように設定を変更してください。	応用操作編
	● 電源プラグがコンセントから抜けていませんか？あるいは電源コードが本機 から抜けていませんか？ →電源コードを正しく接続してください。	30、32
音が歪む	● 電源スイッチが「切」になっていませんか？ →電源スイッチを「入」にしてください。	16
	● 入力、出力のシグナル/ピーク表示灯が赤点灯していませんか？ →接続機器の音量および本機のトリムノブ、フェーダーを調整してください。	12、14 24
音がノイズっぽい	● 入力レベルが低すぎてシグナル/ピーク表示灯が消灯していませんか？ →接続機器の音量および本機のトリムノブ、フェーダーを調整してください。	12、14 24
電源コードの被ふくが傷 んでいる	● 電源コード、コネクタ、電源プラグが傷んでいます。そのままの状態を使い 続けると、感電や火災の原因になります。直ちに電源プラグを抜いて、お買 い上げの販売店に修理を依頼してください。	—
使用中、電源コード、コネ クタ、電源プラグの一部が 熱い		
使用中、電源コードを曲げ たり伸ばしたりすると、温 かくなったり、ぬるくなっ たりする		

# 仕様

電源	AC100 V 50 Hz / 60 Hz	
消費電力	90 W (電気用品安全法 (IEC-J条件) に基づく)	
周波数特性	20 Hz ~ 20 kHz +0.5 dB、-1.0 dB	
入力換算雑音	-126 dBu以下 (ソースインピーダンス150 Ω、IHF-A WTD)	
チャンネル間クロストーク	70 dB以上 (20 Hz~20 kHz)	
ダイナミックレンジ	108 dB typ (IHF-A WTD)	
AD/DA変換	32 bit (内部信号処理分解能 32 bit/40 bit浮動小数点演算)	
サンプリング周波数	48 / 96 kHz	
信号遅延	1.9 ms以下 (アナログ入力~マトリクス~アナログ出力)	
構成	インプット	48 (32モノ+8ステレオ)
	ミキシングバス	34
	マトリクス入力	71 (ミキシングバス、インプット、トークバック、リバーブ)
	マトリクス出力	16
	モニター	1 (ステレオ) バス、マトリクス、メインLR、INPUT13/14,15/16 の選択+PFL 割り込み
	ヘッドホン出力	1 (150 mW max /複式ジャック)
フェーダー	100mmモーターフェーダー×17	
ユーザーメモリー数	ミュートグループ: 8ミュートグループ パターンメモリー: 96パターン ライブラリメモリー: イコライザー、ダイナミクスに各16ライブラリ装備	
使用温度範囲	0 °C~45 °C	
質量	約 16 kg	
外形寸法	幅 485 mm 高さ 265 mm 奥行き 647 mm	
仕上げ	黒色塗装 (マンセルN1 近似色)	
PEQ (マトリクス以外)	LOW (PKG)	Q=0.3~30、F=20 Hz~20 kHz (1/48 octステップ)、G=±15 dB (0.5 dBステップ)
	LOW (SHL)	F=20 Hz~20 KHz (1/48 octステップ)、G=±15 dB (0.5 dBステップ)
	LOW-MID (PKG)	Q=0.3~30、F=20 Hz~20 kHz (1/48 octステップ)、G=±15 dB (0.5 dBステップ)
	HIGH-MID (PKG)	Q=0.3~30、F=20 Hz~20 kHz (1/48 octステップ)、G=±15 dB (0.5 dBステップ)
	HIGH (PKG)	Q=0.3~30、F=20 Hz~20 kHz (1/48 octステップ)、G=±15 dB (0.5 dBステップ)
	HIGH (SHL)	F=20 Hz~20 kHz (1/48 octステップ)、G=±15 dB (0.5 dBステップ)
PEQ (マトリクス)	BAND1 (PKG)	Q=0.3~30、F=20 Hz~20 kHz (1/48 octステップ)、G=±15 dB (0.5 dBステップ)
	BAND1 (SHL)	F=20 Hz~20 KHz (1/48 octステップ)、G=±15 dB (0.5 dBステップ)
	BAND2~7 (PKG)	Q=0.3~30、F=20 Hz~20 kHz (1/48 octステップ)、G=±15 dB (0.5 dBステップ)
	BAND8 (PKG)	Q=0.3~30、F=20 Hz~20 kHz (1/48 octステップ)、G=±15 dB (0.5 dBステップ)
	BAND8 (SHH)	F=20 Hz~20 kHz (1/48 octステップ)、G=±15 dB (0.5 dBステップ)
HPF	カットオフ周波数	F=20 Hz~1.8 kHz (1/12 octステップ)
	スロープ	-6 dB/oct、-12 dB/oct、-18 dB/oct、-24 dB/oct
GEQ	31バンドグラフィックイコライザー G=±15 dB (0.5 dB ステップ)	

# 仕様

ダイナミクス		
コンプレッサー リミッター	THRESHOLD	-36 dBu~+24 dBu (1 dBステップ)
	RATIO	1~inf (n : 1)
	ATTACK TIME	0 ms~250 ms
	RELEASE TIME	5 ms~2000 ms
	GAIN	0 dB~+12 dB (0.5 dBステップ)
ゲート	THRESHOLD	OFF、-90 dBu~ -40 dBu (1 dBステップ)
	ATTACK TIME	0 ms~ 250 ms
	RELEASE TIME	5 ms~2000 ms
ディレイ	INPUT:0 ms~1000 ms (20.8 $\mu$ sステップ) OUTPUT: 0 ms~300 ms (20.8 $\mu$ sステップ)	
フェイズ	NORMAL/INVERSE	
リバーブ	8種類 (Hall、Room、Plate、Delay、StereoDelay、DelayRev、StDelayRev)	
ファンタム電源	+48 V DC 1系統あたり最大10 mA アナログ入力1~16に搭載	
ハウリングサプレッサー (ダイナミックノッチ)	SENS (感度設定) : HIGH/MID/LOW RESP (検出速度設定) : SLOW/FAST インプット1~16に最大8系統まで、 インプット17~32に最大8系統までインサート可能。 (1チャンネルあたりノッチフィルター数 : 4)	
アナログ入力 (1~16)		
コネクター	XLR3ピン メスコネクター (平衡)	
入力インピーダンス	10 k $\Omega$	
定格入力レベル	-60 dBu~+4 dBu	
最大入力レベル	+24 dBu以上	
アナログ出力 (1~16、モニターL, R)		
コネクター	XLR3ピン オスコネクター (平衡)	
適合負荷インピーダンス	10 k $\Omega$ 以上	
定格出力レベル	+4 dBu	
最大出力レベル	+24 dBu以上	
デジタル入出力 (入力 32 ch, 出力 32 ch)		
コネクター	RJ45 (Primary, Secondary)	
フォーマット	Dante	
ランプ接続端子		
コネクター	XLR4ピン メスコネクター	
出力	DC12V	
電源容量	最大5 W	

※0 dBu=0.775 Vrms

# 付録・ライセンス文について

---

[USB Driver]

The Clear BSD License

Copyright (c) 2015 - 2016, Freescale Semiconductor, Inc.

Copyright 2016 - 2017 NXP

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted (subject to the limitations in the disclaimer below) provided that the following conditions are met:

- o Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- o Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- o Neither the name of the copyright holder nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

NO EXPRESS OR IMPLIED LICENSES TO ANY PARTY'S PATENT RIGHTS ARE GRANTED BY THIS LICENSE. THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

## 付録・ライセンス文について

---

[lwIP 2.0.3]

lwIP is licenced under the BSD license:

Copyright (c) 2001-2004 Swedish Institute of Computer Science.  
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR ``AS IS AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

# 保証とアフターサービス

よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは

■まず、お買い求め先へご相談ください

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名	
電話	( ) -
お買い上げ日	年 月 日

## 修理を依頼されるときは

「故障かな!？」(42ページ)でご確認のあと、直らないときは、まずアンプの電源を切って、お買い上げ日と右の内容をご連絡ください。

●製品名	オーディオミキサー
●品番	WR-DX350
●故障の状況	できるだけ具体的に

## ●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

## ●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※修理料金は次の内容で構成されています。

技術料	診断・修理・調整・点検などの費用
部品代	部品および補助材料代
出張料	技術者を派遣する費用

※補修用性能部品の保有期間 **7年**

当社は、本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後7年保有しています。

## アフターサービスについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または保証書表面に記載されています連絡先へお問い合わせください。

## 長期間使用に関するお願い

安全にお使いいただくために、販売店または施工業者による定期的な点検をお願いします。

本機を長年お使いの場合、外観上は異常がなくても、使用環境によっては部品が劣化している可能性があり、故障したり、事故につながることもあります。

下記のような状態ではないか、日常的に確認してください。

特に10年を超えてお使いの場合は、定期的な点検回数を増やすとともに買い換えの検討をお願いします。

詳しくは、販売店または施工業者に相談してください。

### このような状態ではありませんか？

- 煙が出たり、こげくさいにおいや異常な音がする。
- 電源コード・電源プラグ・ACアダプターが異常に熱い。または割れやキズがある。
- 製品に触るとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても、音が出てこない。
- その他の異常・故障がある。

### 直ちに使用を中止してください


故障や事故防止のため、**電源を切り**、必ず販売店または施工業者に**点検**や**撤去**を依頼してください。

取扱説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他で不明な点は下記へご相談ください。

システムお客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル  **0120-878-410** バ ナ ハ ヨ イ ツ 受付：9時～17時30分（土・日・祝祭日は受付のみ）  
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは [https://biz.panasonic.com/jp-ja/support\\_cs-contact](https://biz.panasonic.com/jp-ja/support_cs-contact)

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

#### 【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック コネクト株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくための発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

## パナソニック コネクト株式会社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号